

地域共生学科介護福祉コース

分類	授業科目	方法	必修	選択	年次	期	頁
専門教育科目	人間の尊厳と自立	講義		2	1	後	215
	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義		2	2	前	217
	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義		2	2	後	219
	社会の理解Ⅰ	講義		1	1	後	221
	社会の理解Ⅱ	講義		2	2	前	223
	社会の理解Ⅲ	講義		1	2	後	225
	介護の基本A	講義		4	1	通	227
	介護の基本B	講義		4	1	通	230
	介護の基本C	講義		4	2	通	233
	コミュニケーションA	演習		1	1	前	236
	コミュニケーションB	演習		1	1	後	238
	生活支援技術A	演習		4	1	通	240
	生活支援技術B	演習		2	1	前	245
	生活支援技術C	演習		2	2	通	247
	生活支援技術D	演習		2	2	通	249
	介護過程Ⅰ	演習		1	1	前	252
	介護過程Ⅱ	演習		1	1	後	254
	介護過程Ⅲ	演習		2	1・2	後・前	256
	介護過程Ⅳ	演習		1	2	通	259
	介護総合演習Ⅰ	演習		2	1	通	261
	介護総合演習Ⅱ	演習		2	2	通	264
	介護実習Ⅰ	実習		4	1	通	267
	介護実習Ⅱ	実習		5	1・2	後・前	269
	こころとからだA	講義		2	1	前	271
	こころとからだB	講義		2	1	前	273
	こころとからだC	講義		2	1	後	275
	こころとからだD	講義		2	2	前	277
	発達と老化の理解Ⅰ	講義		2	1	前	280
	発達と老化の理解Ⅱ	講義		2	1	後	282
	認知症の理解A	講義		2	1	前	285
	認知症の理解B	講義		2	1	後	288
	障害の理解Ⅰ	講義		2	1	前	291
	障害の理解Ⅱ	講義		2	1	後	293
	医療的ケアA	講義		2	2	前	295
医療的ケアB	講義		2	2	前	298	
医療的ケアC	実習		2	2	後	300	

人間の尊厳と自立

更新日：2026/05/19 15:15:36

開講年度	2026	開講期	4Q/8Q	ナンバリング	MS201
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

人間の尊厳と自立のあり方について学ぶ。本講義では、①人権・福祉理念の変遷について理解できる、②人権と尊厳に関する諸規定を説明できる、③人間の尊厳と利用者主体を理解できる、④自立について説明できる、⑤尊厳と自立支援の関係性を理解できることを目標とする。

授業における到達目標

1	学修を通して、現代社会における尊厳とはなにかを自ら考え、分析的に考える力を身につける。
2	人権・福祉理念の変遷について理解できる。
3	人権と尊厳に関する諸規定を説明できる。
4	人間の尊厳と利用者主体を理解できる。
5	自立について説明できる。
6	尊厳と自立支援の関係性を理解できる。
7	利用者の主体性を重視した声かけを理解できる。
8	介護保険法における尊厳と自立について考えることができる。
9	尊厳を重視した介護の重要性を理解し、積極的な学習ができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2,3,4,5,6	定期試験	70%
コミュニケーション能力	7	グループワーク	10%
課題解決能力	8	レポート	5%
主体的に学ぶ力	9	授業への参加、態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験70%、グループワーク10%、レポート10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	人間の尊厳と利用者主体の関係について理解する。	面接授業	予習：人間の尊厳と利用者主体を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
2	2回目	人権思想のこれまでの流れを説明する。	面接授業	予習：人権思想の潮流とその具現化を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
3	3回目	日本の諸規定にみられる人権と尊厳について説明する。	面接授業	予習：人権や尊厳に関する日本の諸規定を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。

4	4回目	戦前の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。	面接授業	予習：p16社会福祉の領域での人権・福祉理念の変遷を読んでおくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
5	5回目	戦後の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。	面接授業	予習：p24社会福祉の領域での人権・福祉理念の変遷を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
6	6回目	利用者の権利について理解する。	面接授業	予習：人権尊重と権利擁護を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
7	7回目	介護保険法における尊厳と自立について理解する。	面接授業	予習：これまでの学習を振り返っておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
8	8回目	自立のさまざまな側面を理解する。	面接授業	予習：自立のあり方について読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
9	8回目	自立と自己決定の関係について理解する。	面接授業	予習：自立とはを読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
10	10回目	介護における自立支援が目指すものを理解する。	面接授業	予習：介護を必要とする人の自立と自立支援を読んでおくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
11	11回目	自立支援とICFの関係を説明する。	面接授業	予習：ICFについて考えておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
12	12回目	尊厳を損なう介護について理解する。	面接授業	予習：尊厳について考えておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
13	13回目	尊厳を守る介護について理解する。	面接授業	予習：尊厳を守る介護について考えておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
14	14回目	利用者の主体性を大切にされた声かけを理解する。	面接授業	予習：主体性を大切にされた声かけを考えておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
15	15回目	まとめ	面接授業	復習：講義の内容を振り返り定期試験に向けた学修を行なう（4時間）。
16	16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 1『人間の理解 第2版』（中央法規）	
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	特になし	
履修条件		
履修上の注意		
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	基本的人権（自由、平等、生存権など）に関する出来事に関心をもつようにする。	

人間関係とコミュニケーション I

更新日：2026/05/19 15:15:37

開講年度	2026	開講期	4Q/8Q	ナンバリング	MS301
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの種類	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

人間関係におけるコミュニケーションの機能と取り方について学ぶ。本講義では、①人間関係について説明できる、②コミュニケーションの機能と構造について説明できる、③コミュニケーションの手段を説明できる、④対人援助関係におけるコミュニケーションの取り方を理解できる、⑤組織におけるコミュニケーションの取り方を理解できることを目標とする。

授業における到達目標

1	授業で学修したこと等を通して、対人援助における親和的なコミュニケーションが重要なことを理解できる
2	人間関係について説明できる
3	コミュニケーションの機能と構造について説明できる
4	コミュニケーションの手段を説明できる
5	組織におけるコミュニケーションの取り方について理解できる
6	対人援助関係におけるコミュニケーションの基本について、講義内容をまとめることができる
7	コミュニケーションについて理解することの必要性を理解し積極的な学習ができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2,3,4	定期試験	70%
コミュニケーション能力	5	演習・グループワーク	10%
課題解決能力	6	レポート	5%
主体的に学ぶ力	7	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験70%、グループワーク（レポート）10%、レポート10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する。
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	自分と他者の理解について理解する	面接授業	予習：p 84～p 88自分と他者の理解を（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
2	2回目	人間関係形成のために必要なことを理解する	面接授業	予習：p 89～p 94人間関係形成のために必要なこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
3	3回目	発達心理学からみた人間関係について理解する	面接授業	予習：p 95～p 101発達心理学からみた人間関係（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
4	4回目	人間関係とストレス	面接授業	予習：p 113～p 120人間関係とストレス（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
5	5回目	コミュニケーションの概念と基本構造	面接授業	予習：p 122～p 140コミュニケーションの概念と基本構造（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）

6	6回目	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	面接授業	予習：p142～p149対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
7	7回目	演習① 関係性によるあいさつの違いについて考える	面接授業	予習：これまでの授業を復習しておくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
8	8回目	対人援助関係とコミュニケーションの関係	面接授業	予習：p150～p152対人援助における基本的態度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
9	9回目	対人援助における基本的態度	面接授業	予習：p153～p154援助的人間関係の形成（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
10	10回目	援助的人間関係の形成	面接授業	予習：p155～p161バーステックの7つの原則（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
11	11回目	演習② 傾聴について考える。バーステックの7つの原則について考える	面接授業	予習：これまでの授業を復習しておくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
12	12回目	演習③ 傾聴について考える。バーステックの7つの原則について考える	面接授業	予習：これまでの授業を復習しておくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
13	13回目	組織におけるコミュニケーションの特徴	面接授業	予習：p163～p166組織の条件とコミュニケーションの特徴（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
14	14回目	組織における情報の流れ	面接授業	予習：p166～p169組織における情報の流れ（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
15	15回目	組織において求められるコミュニケーション	面接授業	予習：p170～p175組織において求められるコミュニケーション（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修 60時間

その他

科目（教職課程用）					
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等					
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項					
教科書	<table border="1"> <tr> <td>【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など</td> <td>【教科書】ISBN</td> </tr> <tr> <td>最新 介護福祉士養成講座 1『人間の理解 第2版』（中央法規）</td> <td>9.78481E+12</td> </tr> </table>	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN	最新 介護福祉士養成講座 1『人間の理解 第2版』（中央法規）	9.78481E+12
【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN				
最新 介護福祉士養成講座 1『人間の理解 第2版』（中央法規）	9.78481E+12				
参考書	<table border="1"> <tr> <td>【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など</td> <td>【参考書】ISBN</td> </tr> </table>	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN		
【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN				
履修条件					
履修上の注意	授業で学んだことを、テキストを中心に、自宅で復習するとより理解が深まると思います。自宅での学修をしっかりと取り組んでください。				
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。				
備考・メッセージ	対人援助におけるコミュニケーションについて関心をもつようにする。				

人間関係とコミュニケーションⅡ

更新日：2026/05/27 14:23:25

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	MS401
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

人間関係におけるコミュニケーションの機能と取り方について学ぶ。本講義では、①介護実践におけるチームマネジメントの意義について説明できる、②ケアを展開するためのマネジメントについて説明できる、③チームの力を最大化するためのマネジメントについて説明できる、④人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントを説明できる、⑤組織の目標達成のためのチームマネジメントを説明できることを目標とする。

授業における到達目標

1	授業で学修した内容を、自らの考えを交えながら記述することができる。
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義について説明できる。人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントを説明できる。組織の目標達成のためのチームマネジメントを説明できる。
3	ケアを展開するためのマネジメントについて説明できる。
4	チームの力を最大化するためのマネジメントについて説明できる。
5	チームマネジメントについて理解することの必要性を理解し積極的な学習ができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	70%
コミュニケーション能力	3	演習・グループワーク	10%
課題解決能力	4	レポート	5%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験70%、演習・グループワーク20%、レポート10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	ヒューマンサービスとしての介護サービスについて理解する。	面接授業	予習：ヒューマンサービスとしての介護サービスを読んでおくこと（2時間）P178～186 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
2	2回目	介護現場で求められるチームマネジメントについて理解する。	面接授業 オンライン可	予習：介護現場で求められるチームマネジメントについて読んでおくこと。（2時間）P187～192 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
3	3回目	介護実践におけるチームマネジメントへの取組について理解する。	面接授業 オンライン可	予習：介護実践におけるチームマネジメントへの取組について読んでおくこと（2時間）。P192～200 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。

4	4回目	演習① ケアを展開するさまざまなチームについて考える。	面接授業	予習：これまでの授業を復習しておくこと（2時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
5	5回目	ケアを展開するために必要なチームとその取組について理解する。	面接授業 オンライン可	予習：ケアを展開するために必要なチームとその取組について読んでおくこと（2時間）。P203～206 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
6	6回目	チームでケアを展開するためのマネジメントについて理解する。 演習② 情報共有の場について考える。	面接授業	予習：ケアを展開するために必要なチームとその取り組みを読んでおくこと（2時間）。P207～212 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
7	7回目	チームの力を最大化するためのマネジメントについて理解する。	面接授業	予習：チームの力を最大化するためのマネジメントを読んでおくこと（2時間）。P212～218 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
8	8回目	介護福祉職のキャリアと求められる実践力について説明する。	面接授業 オンライン可	予習：介護福祉職としてのキャリアデザインを読んでおくこと（2時間）。P221～228 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
9	9回目	介護福祉職としてのキャリアデザインについて説明する。	面接授業	予習：介護福祉職としてのキャリアデザインについて読んでおくこと（2時間）。P228～233 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
10	10回目	介護福祉職のキャリア開発の支援と開発について説明する。	面接授業	予習：介護福祉職のキャリア支援・開発を読んでおくこと（2時間）。P233～238 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
11	11回目	自己研鑽を支える体制について説明する。 演習③ 介護福祉士としてのキャリアをイメージする。	面接授業	予習：自己研鑽を支える体制を読んでおくこと（2時間）。P238～250 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
12	12回目	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて説明する。	面接授業 オンライン可	予習：介護サービスを支える組織の構造を読んでおくこと（2時間）。P252～260 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
13	13回目	介護サービスを支える組織の機能と役割について説明する。	面接授業 オンライン可	予習：介護サービスを支える組織の機能と役割を読んでおくこと（2時間）P261～266 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
14	14回目	介護サービスを支える組織の管理について説明する。 演習④ 組織の理念について考える。	面接授業	予習：介護サービスを支える組織の管理について読んでおくこと（2時間）P266～273 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）。
15	15回目	学習のまとめ	面接授業	復習：15回の講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（4時間）。
16	16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 1『人間の理解 第2版』（中央法規）	97848058-8390-7
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意		
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	対人援助におけるコミュニケーションについて関心をもつようにする。	

社会の理解 I

更新日：2026/05/19 15:15:40

開講年度	2026	開講期	2Q/6Q	ナンバリング	MS101
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	1	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

家族や地域の現状をふまえた上で、地域における生活支援と地域共生社会の実現に向けた制度について理解を深める。本講義では、①生活の基本機能を理解できる、②家族の機能と役割を説明できる、③地域における生活支援について理解できる、④地域福祉について理解できる、⑤地域共生社会の実現に向けた取り組みについて説明できることを目標とする。

授業における到達目標

1	家族や地域の現状について自ら考え、授業で学んだ事を記述することができる
2	ライフスタイルの変化を理解できる
3	家族の機能と役割を説明できる
4	社会・組織の機能と役割について理解できる
5	地域社会の実現に向けた取組について理解できる
6	地域福祉の発展について理解できる
7	地域共生社会について理解できる
8	地域包括ケアシステムについて理解できる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2,3,4,5,6	定期試験	70%
コミュニケーション能力	7	レポート	5%
課題解決能力	8	定期試験	10%
主体的に学ぶ力	9	定期試験 授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験80%、レポート10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する。
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	生活の基本機能について説明する	面接授業	予習：家族の機能と役割を読んでおくこと（2時間） p2～p8 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
2	2回目	ライフスタイルの変化を理解できる	面接授業	予習：社会・生活の変化について調べておくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間） p9～p15
3	3回目	家族の機能と役割を説明できる	面接授業	予習：家族の機能と役割について読んでおくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間） p16～p20

4	4回目	社会・組織の機能と役割について理解できる	面接授業	予習：社会・組織の機能を読んでおくこと（2時間） p 21～p 27 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
5	5回目	地域社会の実現に向けた取組について理解できる	面接授業	予習：地域・地域社会を読んでおくこと（2時間）。 p 28～p 32 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
6	6回目	地域福祉の発展について理解できる	面接授業	予習：地域福祉について調べておくこと（2時間） p 34～p 42 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
7	7回目	地域共生社会について理解できる	面接授業	予習：配布したプリントを整理しておくこと（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間） p 43～p 49
8	8回目	地域包括ケアシステムについて理解できる	面接授業	予習：地域包括ケアシステムについて調べておくこと（2時間） p 50～p 54 復習：8回の講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第3版/坂本毅啓他（2026）中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	授業の前に、テキストを読み講義をうけるとより理解が深まると思います。社会福祉の専門用語も多い為、調べ学習等の自学を頑張ってください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	社会福祉に関する出来事に関心をもつようにする。	

社会の理解Ⅱ

更新日：2026/05/19 15:15:41

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	MS302
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの種類	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど）	

授業概要

社会保障制度、介護保険制度、障害者総合支援制度の創設された背景、目的、仕組み、専門職・組織の役割について学ぶ。本講義では、①社会保障制度が創設された背景と目的について理解できる、②社会保障制度の仕組みを説明できる、③介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる、④介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる、⑤障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できることを目標とする。

授業における到達目標

1	授業で学んだ制度の仕組みやその目的等を、自ら考えながら、まとめを記述する事ができる
2	社会保障制度が創設された背景と目的を理解できる
3	社会保障制度の仕組みを説明できる
4	介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる
5	介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる
6	障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できる
7	レポート作成、グループワーク等で、介護保険制度について理解できる
8	介護保険制度創設の背景と目的から、利用者の生活課題について考えることができる
9	介護保険制度における介護福祉士の役割について考えることができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2.3.4.5.6	定期試験	70%
コミュニケーション能力	7	レポート	5%
課題解決能力	8	レポート	10%
主体的に学ぶ力	9	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験70%、レポート20%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する、
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	社会保障制度の基本的な考え方（目的と機能）	面接授業	予習：p56～p68 社会保障制度の基本的な考え方（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
2	2回目	社会保障制度の歴史的展開	面接授業	予習：p69～p80 日本の社会保障制度の発達（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
3	3回目	社会保険の内容の理解	面接授業	予習：p81～p100 日本の社会保障制度のしくみ（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）

4	4回目	社会保険の内容の理解	面接授業	予習：p81～p100 日本の社会保障制度のしくみ（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
5	5回目	生活保護制度の理解	面接授業	予習：p295～p303 貧困と生活困窮に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
6	6回目	社会保障制度の動向と課題の理解	面接授業	予習：p101～p110 現代社会と社会保障制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
7	7回目	高齢者保健福祉の動向	面接授業	予習：p114～p126高齢者保健福祉の動向（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
8	8回目	高齢者保健福祉の法体系	面接授業	予習：p128～p135 高齢者保健福祉に関連する法体系（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
9	9回目	介護保険制度創設の背景と目的	面接授業	予習：p136～p194介護保険制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
10	10回目	介護保険制度の仕組み	面接授業	予習：p136～p194介護保険制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
11	11回目	介護保険制度の仕組み	面接授業	予習：p136～p194介護保険制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
12	12回目	障害者保健福祉の動向	面接授業	予習：p198～p206 障害者保健福祉の動向（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
13	13回目	障害者保健福祉の法体系	面接授業	予習：p207～p224 障害者保健福祉に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
14	14回目	障害者総合支援制度創設の背景と目的	面接授業	予習：p225～p245障害者総合支援制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
15	15回目	振り返りを行う	面接授業	予習：これまでの資料を整理しておくこと（2時間） 復習：15回の講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（2時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修 60時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 2 『社会の理解 第3版』（中央法規）	9.78482E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件	授業の前に、テキストを読み講義をうけるとより理解が深まると思います。社会福祉の専門用語も多い為、調べ学習等の自学を頑張ってください。	
履修上の注意	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
オフィスアワー	社会福祉に関する出来事に関心をもつようにする。	
備考・メッセージ		

社会の理解Ⅲ

更新日：2026/05/19 15:15:42

開講年度	2026	開講期	3Q/7Q	ナンバリング	MS402
担当教員	池田 茂則				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	1	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど）	

授業概要

介護の実践に関連する諸制度について理解を深める。本講義では、①個人の権利を守る制度を理解できる、②保健医療に関する制度を理解できる、③貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる、④地域生活を支援する制度を理解できることを目標とする。

授業における到達目標

1	授業で学んだことを、自らの考えを交えながら、まとめを記述することができる
2	個人の権利を守る制度を理解できる
3	保健医療に関する制度を理解できる
4	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる
5	地域生活を支援する制度を理解できる
6	介護の実践に関連する制度について理解できる
7	これらの制度に関する課題について考えることができる
8	関連する制度について理解することの必要性を理解し積極的な学習ができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	2,3,4,5	定期試験	70%
コミュニケーション能力	6	レポート	5%
課題解決能力	7	レポート	5%
主体的に学ぶ力	8	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験70%、レポート20%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
 対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する。
 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	虐待防止に関する制度	面接授業	予習：p254～p260虐待防止に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
2	2回目	成年後見制度	面接授業	予習：p260～p265サービス利用に関する制度2時間 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
3	3回目	消費者保護に関する制度	面接授業	予習：p268～p277消費者保護に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
4	4回目	保健医療に関する制度	面接授業	予習：p278～p291保健医療に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
5	5回目	生活困窮者自立支援法	面接授業	予習：p296～p300生活困窮者自立支援法（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）

6	6回目	就労支援・雇用促進に関する制度	面接授業	予習：p301～p310就労支援・雇用促進に関する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
7	7回目	住生活を支援する制度	面接授業	予習：p306～p310住生活を支援する制度（2時間） 復習：講義の内容を振り返り理解を深める（2時間）
8	8回目	まとめ	面接授業	予習：配布したプリントを整理する（1時間） 復習：8回の講義の内容を振り返り理解を深める（1時間）
9	9回目	定期試験	面接授業	授業外学修 30時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版/坂本毅啓他（2022）中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	授業の前に、テキストを読み講義をうけるとより理解が深まると思います。社会福祉の専門用語も多い為、調べ学習等の自学を頑張ってください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	社会福祉に関する出来事に関心をもつようにする。	

介護の基本A

更新日：2026/05/19 15:15:43

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG101
担当教員	白似田 健悟, 太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必修区分	授業形態	
	1年	4	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護を必要とする人の支援を行うために必要な、生活・社会資源・リスクマネジメント・多職種連携について理解する。支援対象者の個別性を理解し自立支援に向けた基礎知識を身につけることができる。

- ①介護を受けて生活する人およびその生活について理解する
- ②フォーマルおよび、インフォーマルな支援、地域連携について学びを深める
- ③介護における安全の確保、リスクマネジメントとは何か、リスクを回避する方法について学ぶ
- ④多職種が連携する必要性や多職種の役割を知る

授業における到達目標

1	支援が必要な人の立場に立った視点を持ち、自ら考え生活課題を知ることができる。
2	生活とは何かを理解し、介護が必要な人の生活課題をみつけだし、その改善方法を考えることができる。
3	フォーマルサービス、インフォーマルサービスの違いを理解することができる。
4	リスク回避の方法と、多職種連携の意義が理解できる。
5	学生自身の生活について基本的な理解を深め、その上で利用者個人の「生活ニーズ」、「その人らしさ」を大切に介護のあり方について討議できる。
6	生活課題を見つけ出し、その改善方法について記述することができる。
7	積極的に学習ができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3, 4	定期試験	70%
コミュニケーション能力	5	グループワーク	10%
課題解決能力	6	レポート	5%
主体的に学ぶ力	7	授業への参加態度	10%
合計			100

補足事項

- ・本授業では 定期試験70%、レポート10%、グループワーク10%、授業への参加態度10%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する
- ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「介護を必要とする人の理解」 私たちの生活の理解 生活とは何か	面接授業 オンライン可	予習：p 2～p 5（2時間）

2	2回目	私たちの生活の理解 生活にとって大切な要素 生活の特性 データを読み解く：生活活動の種類。男女、年齢階級、行動の種類別生活時間。家庭の役割。	面接授業 オンライン可	復習：前回の授業（2時間） 予習：p3～p9（2時間）
3	3回目	私たちの生活の理解 配布資料をもとに、演習を行う	面接授業 オンライン可	復習：1回目・2回目授業を復習しておくこと（4時間）
4	4回目	私たちの生活の理解 生活の特性 演習を通して生活の違いを理解する データを読み解く：働く目的。	面接授業 オンライン可	復習：p2～p8（2時間） 予習：p9～p13（2時間）
5	5回目	介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く	面接授業	予習：p17～p22（2時間）
6	6回目	介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：p17～p24（2時間）
7	7回目	介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く	面接授業	予習：p25～p31（2時間）
8	8回目	介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：p25～p35（2時間）
9	9回目	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解。 その人らしさを考える。	面接授業	予習：p37～p40（2時間）
10	10回目	生活のしづらさの理解とその支援 演習：生活のしづらさを自分の事として考える	面接授業	復習：前回授業（2時間） 予習：p41～p46（2時間）
11	11回目	生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 生活障害について考える	面接授業	復習：p41～p46（2時間） 予習：配布資料を読んでおくこと（2時間）
12	12回目	生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 前回授業のグループワーク、発表。	面接授業	復習：p41～p46（2時間） 予習：配布資料を読んでおくこと（2時間）
13	13回目	介護を必要とする人の理解について、小テスト①の実施	面接授業	復習：p2～p46（2時間） これまでの授業内容を復習しておくこと。（4時間）
14	14回目	「介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ」 生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは	面接授業	予習：p48～p61（4時間）関連項目：社会の理解、第3章3節、第4章3節、第5章3節を事前に読んでおくこと理解がより深まる。
15	15回目	生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは	面接授業	予習：p48～p61（2時間） 復習：14回授業（2時間）
16	16回目	生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 演習2-1をグループワーク発表	面接授業	予習：p48～p61（2時間）
17	17回目	生活を支えるインフォーマルサービス 私的サービスとは	面接授業	予習：p64～p69（2時間） 関連項目：社会の理解、第3章3節を事前に読んでおくこと理解がより深まる。
18	18回目	地域連携 意義と目的、期間の理解。	面接授業	予習：p71～p82（3時間） 関連項目：社会の理解、第2章を事前に読んでおくこと理解がより深まる。
19	19回目	地域連携 利用者を取り巻く地域連携の実際	面接授業	復習：p71～p82（3時間） 予習：p83～p85（1時間）
20	20回目	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ について 小テスト②を行う	面接授業	復習：p48～p85 これまでの授業内容を復習しておくこと。（8時間）
21	21回目	「介護における安全の確保とリスクマネジメント」 介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何か	面接授業	予習：p88～p100（4時間）
22	22回目	介護における安全の確保 事故防止のための対策	面接授業	予習：p101～p117（2時間）
23	23回目	感染症対策 介護福祉職に必要な感染に関する知識を身につける	面接授業	予習：p120～p142（4時間）
24	24回目	介護における安全の確保とリスクマネジメント について 小テスト③を行う	面接授業	復習：p88～p142 これまでの授業内容を復習しておくこと。（5時間）
25	25回目	「協働する多職種の機能と役割」 多職種連携・協働の必要性	面接授業	予習：p146～p156（3時間）
26	26回目	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	面接授業	予習：p158～p166（2時間）

27	27回目	多職種連携・協働に求められる基本的な能力。ホスピタリティー・コミュニケーション能力とは何か	面接授業	予習：p167～p171（2時間）
28	28回目	保険・医療・福祉職の役割と機能	面接授業	予習：p173～p180（3時間）
29	29回目	他職種連携・協働の実際	面接授業	復習：配布資料の読み返し（2時間） 予習：p183～p198（4時間）
30	30回目	協働する多職種の機能と役割について	面接授業	復習：p140～p198 これまでの授業内容を復習しておくこと。（16時間）
31	31回目	定期試験		授業外学修時間 120時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座4 「介護の基本II 第3版」/及川ゆりこ他/2026年/中央法規出版	978-4-8243-0340-0
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	
履修条件		
履修上の注意	介護の基本Aでは、生活支援における基本を学びます。この基本は介護福祉士にとって非常に重要な考え方となります。テキストを読み解き、他科目のテキスト「関連項目」も意識しながら授業にのぞんでください。そうすることで、より深い理解が生まれます。各課題は指定された締切日までに提出してください。小テストにて理解度の確認をします。授業の復習にとりこんでください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

介護の基本B

更新日：2026/05/19 15:15:45

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG102
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	4	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護福祉の理念となる、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

授業における到達目標

1	自ら考え、課題に対して取り組むことができ、クラスメイトとも協力して分析的に考える力を身につける
2	「介護」の経緯を理解する
3	様々な介護場面での介護福祉士の役割と機能を理解する
4	介護福祉士の職業倫理を理解する
5	自立支援の考え方を理解する
6	かわかりを示すための基本動作、納得と同意を得る技法を理解している
7	多職種を役割を理解し、課題に取り組み、解決することができる
8	介護概念・基本理念・介護福祉士の倫理・自立支援の在り方を理解することができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	授業態度 課題への取り組み	10%
確かな専門的知識や技能	2,3,4,5	定期試験	60%
コミュニケーション能力	6	グループディスカッション	10%
課題解決能力	7	授業への参加 課題への取り組み	10%
主体的に学ぶ力	8	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ・評価の割合は、授業参加・態度・取り組み40%、定期試験60%とする。
- ・3回遅刻で欠席1回とみなす。
- ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「介護福祉の基本となる理念」 ・介護の成り立ち ・介護福祉を取り巻く状況	面接授業	予習：テキストP2～19まで読み、内容を理解し、演習1-1について考え、まとめておく。自身が考えるよい介護について意見をまとめておく（4時間）
2	2回目	「介護福祉の基本となる理念」 ・老人福祉法の制定に至るまでの社会福祉政策 ・1970年代 ・1980年代	面接授業	予習：テキストP21～37まで読み、内容を理解しておく(3時間) 復習：テキストP21～37見直し授業内容の理解を深める(1時間)
3	3回目	「介護福祉の基本となる理念」 ・1990年代 ・2000年以降	面接授業	予習：P38～51まで読む 演習1-2について考えをまとめておく(3時間) 復習：P38～51テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)

4	4回目	「介護福祉の基本となる理念」 ・介護福祉の理念とは ・尊厳を支える介護 ・自立を支える介護	面接授業	予習：テキストP53～63まで読み、尊厳・自立について考えをまとめる(3時間) 復習：テキストP53～63テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
5	5回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・社会福祉士及び介護福祉士法 ・社会福祉士の資格取得方法	面接授業	予習：テキストP68～75まで読み、介護福祉の法律・資格取得の方法について理解する(3時間) 復習：テキストP60～68テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
6	6回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・地域包括ケアシステム ・医療的ケア ・人生の最終段階の支援 ・災害時の支援	面接授業	予習：テキストP77～91まで読み、演習2-1について考えをまとめる(3時間) 復習：テキストP68～75テキスト見直し授業内容への理解を深める(1時間)
7	7回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・介護福祉士養成教育の始まり ・社会福祉専門職に求められる役割の拡大 ・介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待 チームリーダーとしての介護福祉士への期待	面接授業	予習：テキストP94～104を読み、考えをまとめる(3時間) 復習：テキストP77～81見直し授業内容の理解を深める(1時間)
8	8回目	「介護福祉士の機能と役割」 ・介護福祉士を支える団体	面接授業	予習：テキストP107～115を読み、介護福祉士を支える団体の働きを理解する(3時間) 復習：P99～107テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
9	9回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理	面接授業	予習：テキストP118～122を読み、介護の職業倫理についてまとめる。(3時間) 復習：P118～122テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
10	10回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理 事例紹介	面接授業	予習：テキストP123～130までの事例を読み、介護福祉士としての対応を考える(3時間) 復習：P123～130テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
11	11回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理 事例に基づき、介護福祉士の倫理についてグループディスカッション	面接授業	予習：テキストP130～135の事例について、介護福祉士としての対応を考えておく(3時間) 復習：P130～135テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
12	12回目	「介護福祉士の倫理」 ・日本介護福祉士会倫理綱領	面接授業	予習：テキストP136～148を読み、介護福祉士に求められる態度を理解する(3時間) 復習：P136～148テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
13	13回目	「介護福祉士の倫理」 ・日本介護福祉士会倫理綱領 介護にたずさわる人がもつべき職業倫理を学ぶ グループディスカッション	面接授業	予習：テキストP149を読み、介護福祉士の倫理綱領を理解し、専門性・倫理について考えをまとめておく(3時間) 復習：P136～148テキスト見直し授業内容を理解しておく(1時間)
14	14回目	前期講義まとめ	面接授業	復習：P2～149テキスト見直し、テスト範囲の学習を行う(4時間)
15	15回目	「前期講義復習」 ・中間テスト範囲復習	面接授業	復習：プリント見直しを行い、テスト範囲の学習を行う(4時間)
16	16回目	中間テスト	面接授業	予習：テキストP2～149の範囲の内容を理解しておく。プリントの見直しを行う(4時間)
17	17回目	「自立に向けた介護」 ・自立支援の考え方 ・利用者理解の視点 ・意思決定支援	面接授業	予習：P152～159までを読み、リビング・ウィルについて、エンパワメントの考えについて考えをまとめる(3時間) 復習：P152～159まで読み、授業内容の理解を深める(1時間)
18	18回目	「自立に向けた介護」 ・生活意欲と活動 ・自立と生活支援	面接授業	予習：テキストP160～169を読み、自立支援の考え方についてまとめる(3時間) 復習：テキストP160～169見直し・授業内容の理解を深める(1時間)
19	19回目	「自立に向けた介護」 ・演習4-1 利用者の意思決定を支える方法について理解する	面接授業	予習：演習4-1をテキストや今回までの授業内容を見返し、書き出す。(3時間) 復習：P152～169テキスト見直し・授業内容の理解を深める(1時間)
20	20回目	復習・まとめ 「自立支援について」 事例に基づき、自身で具体的な自立支援について考え、発表する(グループ)	面接授業	復習：自立支援の考え方についてテキストP152～169を読んで、考えをまとめておく。(4時間)

21	21回目	「自立に向けた介護」 ・ICFの考え方 ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する	面接授業	予習：テキストP172～178までを読み、ICFモデルと用語の定義を把握しておく（3時間） 復習：プリントを確認し、ICFの分類と相互作用についての理解を深める（1時間）
22	22回目	「自立に向けた介護」 ・ICFの考え方 ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ	面接授業	予習：テキストP172～179までを読み、演習4-2を記入しておく（3時間） 復習：P172～179までテキストを読み、授業内容の理解を深める（1時間）
23	23回目	「自立支援に向けた介護」 自立支援とリハビリテーション ・リハビリテーションとは	面接授業	予習：P180～187まで読み、リハビリテーションの基本的な考え方についてまとめておく（3時間） 復習：P180～187テキスト見直し授業内容の理解を深める（1時間）
24	24回目	「自立支援に向けた介護」 ・リハビリテーションの実際 ・リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価	面接授業	予習：P184～193まで読み、リハビリテーションの体系や領域・専門職についてまとめておく（3時間） 復習：P184～193テキスト見直し授業内容の理解を深める（1時間）
25	25回目	「自立支援に向けた介護」 ・リハビリテーションのなかでの自立のとりえ方 ・リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	面接授業	予習：テキスト194～197をよみ、P197の演習4-3、4-4を解いておく（3時間） 復習：テキスト168～174を見直し、授業内容を理解する（1時間）
26	26回目	「自立支援に向けた介護」 ・介護予防の概要 ・介護予防の目的と考え方	面接授業	予習：テキストP198～201まで読み、介護予防の基本的な考え方をまとめる（3時間） 復習：P198～200テキスト読み直し、介護予防の目的について理解を深める（1時間）
27	27回目	「自立支援に向けた介護」 ・介護予防の種類と展開 ・高齢者の身体特性と介護予防 高齢者の身体特性・生理特性を理解し、どのような介護予防の方法があるかを学ぶ 生活機能評価について理解する	面接授業	予習：テキストP201～206を読み、高齢者の身体・生理特性についてまとめる（2時間） 復習：P201～206テキスト見直し、生活機能評価について理解を深め、介護福祉士の役割を考える（2時間）
28	28回目	「自立支援に向けた介護」 ・介護予防の実際 ・自立支援と介護予防 ・介護予防における介護福祉士の役割	面接授業	予習：テキストP207～214を読み、演習4-5を記入する。（3時間） 復習：中間テストの復習を行い、テキストP207～213を読み、内容を理解しておく。（1時間）
29	29回目	まとめ	面接授業	復習：テスト範囲内の学習を行う（4時間）
30	30回目	まとめ	面接授業	予習：テキストP152～213の範囲の内容を理解しておく。プリントの見直しを行う（4時間） 復習：テスト範囲内の学習を行う（4時間）
31	31回目	後期試験		授業外学修 120時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版	9.78482E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	本授業では、利用者の尊厳を支える介護の基礎を学ぶ。 そのため、授業内においても相手を尊重する態度、丁寧な言葉遣い、協働する姿勢を大切にすること。 グループワークや演習では、実際の介護場面を想定し、主体的に参加することを求める。	
オフィスアワー	授業後、空きコマ等講義時間外での質問も受け付けます。	
備考・メッセージ	本授業は、介護福祉士としての第一歩となる重要な科目です。 知識だけでなく、「人を大切にできる姿勢」や「気づく力」を身につけることを目指します。 わからないことはそのままにせず、積極的に質問してください。	

介護の基本C

更新日：2026/05/19 15:15:46

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG301
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	4	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

事例研究を参考に、パワーポイントを作成し研究報告の練習を行う。他科目で学修した知識を活かしながら生活課題解決の検討を行い、パワーポイント資料を作成してプレゼンテーションすることができるようになる。また、他学生と協力しながら資料作成することで、コミュニケーション能力・チームワーク能力を身につけることを目指す。

①事例研究論集を例として用い、パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。

生活支援における課題について考えることができる。

②事例研究本論の作成においては、領域「社会の理解」と「こころとからだのしくみ」で学んだ知識と「介護の基本」「生活支援技術」を統合し、生活課題解決のための提案をすることができる。

③介護従事者の心身の健康・労働環境について理解できる。

④2年間で学修した「介護の基本」のまとめを行い、理解を深めることができる。

授業における到達目標

1	学生同士、協力してパワーポイント・レポート等を作成する親和的行動ができる
2	「介護の基本」の知識を正確に身につけることができる。「介護の基本」の知識を修得し、生活支援における根拠を示す事ができる。
3	教員の指導を素直に受け入れ、指導を受けたことを実践することができる。
4	報告・連絡・相談を教員にすることができ、自身の課題を解決することができる。
5	積極的に自らの課題に取り組み続けることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	パワーポイント・レポート	10%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	パワーポイント・レポート	10%
課題解決能力	4	パワーポイント・レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験60%、パワーポイント・レポート30%、授業への参加・態度10%で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	事例研究レポートの作成方法 P C操作、論文作成の環境説明、パワーポイント作成のポイント等	面接授業 オンライン可	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
2	2回目	事例研究レポートの作成方法 パワーポイントの作成	面接授業 オンライン可	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
3	3回目	事例研究レポートの作成方法 構成方法と参考文献 参考文献を探す（図書館の利用方法）	面接授業 オンライン可	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)

4	4回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成	面接授業 オンライン可	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
5	5回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
6	6回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
7	7回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
8	8回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成)	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
9	9回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成)	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
10	10回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの発表	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
11	11回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの発表	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (4時間)
12	12回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 (2時間) 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
13	13回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 (2時間) 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
14	14回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 (2時間) 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
15	15回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業 オンライン可	復習：長期実習日誌類 (2時間) 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
16	16回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業 オンライン可	復習：長期実習日誌類 (2時間) 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
17	17回目	介護従事者の安全 健康管理の意義と目的・こころの健康管理 身体健康管理・労働環境の整備 教科書：介護の基本4	面接授業 オンライン可	予習：p208～p271を読み、内容を確認しておく (4時間)
18	18回目	介護の基本 総まとめ 介護福祉士を取り巻く状況 社会福祉士及び介護福祉士法 テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	予習：p47～p59、p2～p75を読み、内容を確認しておく (4時間)
19	19回目	介護の基本 総まとめ ICF (国際生活機能分類) リハビリテーション① テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	予習：p172～p196を読み、内容を確認しておく (4時間)
20	20回目	介護の基本 総まとめ リハビリテーション② リハビリテーション③ テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	予習：p180～p196を読み、内容を確認しておく (4時間)
21	21回目	介護の基本 総まとめ 地域包括ケアシステム テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	予習：p77～p92を読み、内容を確認しておく (4時間)
22	22回目	介護の基本 総まとめ 多職種連携 テキスト介護の基本Ⅱ	面接授業 オンライン可	予習：p146～p206を読み、内容を理解しておく (4時間)
23	23回目	総まとめテスト①	面接授業	予習：18回、19回、20回授業の内容を理解しておく (4時間)

24	24回目	介護の基本 総まとめ 介護福祉士に求められる役割とその養成 テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	復習：p94～p106を読み、内容を確認しておく (4時間)
25	25回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト②	面接授業	予習：21回、22回授業の内容を理解しておく(4時間)
26	26回目	介護の基本 総まとめ 介護職の倫理 介護における安全の確保① テキスト介護の基本Ⅰ	面接授業 オンライン可	予習：p118～p148 を読み、内容を確認しておく(4時間)
27	27回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト③	面接授業	予習：24回、26回授業を理解しておく(4時間)
28	28回目	介護の基本 総まとめ 介護における安全の確保② 感染症対策 テキスト介護の基本Ⅱ	面接授業 オンライン可	予習：p120～142を読み、内容を確認しておく。 (4時間)
29	29回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト④	面接授業	予習：28回授業 これまでの介護の基本の授業の内容を理解しておく(4時間)
30	30回目	介護の基本 総まとめ 介護職の安全①② テキスト介護の基本Ⅱ	面接授業 オンライン可	予習：p208～p271を読み、内容を確認しておく(4時間)
31	31回目	定期試験		授業外学修時間 120時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など ①最新 介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版 第3版/及川ゆりこ他/2026年/中央法規出版 ②最新 介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ 第3版」/及川ゆりこ他/2026年/中央法規出版	【教科書】ISBN ①9784824303394 ②9784805883938
	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	各自、パワーポイント使用に慣れておくこと。(空きコマ・放課後等で、OP室・自分のPCを使用して操作になれること。)	
オフィスアワー	授業時間後や空きコマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	1. 前期はケースレポート例題をもとに、パワーポイントを使用してプレゼンテーション能力を身につける演習をおこないます。 2. パワーポイントの使い方は各自、自学で身につけてください。前期の授業ではパワーポイントを使用できる力が必要です。 3. 後期は1年次に学習した内容の確認と補足が中心であり、配布資料中心の授業です。総まとめテストにて「介護の基本」の知識を確認します。復習をしっかりと行いテストに臨んでください。 4. 後期は、学外活動が入る可能性もあります。	

コミュニケーションA

更新日：2026/05/19 15:15:48

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	CG103
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必修区分	授業形態	
	1年	1	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、その基本を学びながらコミュニケーションを技術として捉えられるようになる。

- ①傾聴、受容、共感、コミュニケーションにおける距離等を理解することができる。
- ②オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを理解することができる。
- ③言語・非言語・準言語コミュニケーションを理解することができる。
- ④認知フィルターについて学び、リフレーミングについて検討することができる。

授業における到達目標

1	演習を行いながら、クラスメイトと協力して課題に取り組み、親和的な態度でかかわることができる。
2	コミュニケーションの基本技術を学ぶことで生活支援技術（コミュニケーション）の専門的技術を理解できる。
3	傾聴・受容・共感の基本的なコミュニケーション技術を理解できる。
4	対象者やその家族との関係づくりについて理解することができる。
5	積極的に学習ができる。（介護が必要な人のコミュニケーションの基本を理解できる。）

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	2 3 4	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	グループワーク	10%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加態度	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験60%、レポート20%、グループワーク10%、授業参加態度10%、で評価する。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションとは	面接授業 オンライン可	予習：P2～5 (1時間)
2	2回目	護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの対象 演習1-1	面接授業 オンライン可	予習：P6～9 復習：P6～9 (1時間)
3	3回目	介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション	面接授業 オンライン可	予習：P11～19 復習：P11～19 (1時間)
4	4回目	コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術 演習2-1 話を聞く態度	面接授業	予習：P22～34 復習：P22～34 (1時間)
5	5回目	介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション	面接授業	復習：P2～34 (1時間)
6	6回目	介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション	面接授業	復習：P2～34 (1時間)

7	7回目	介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション	面接授業	復習：P2～34（1時間）
8	8回目	コミュニケーションの基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 演習2-2 感情をあらわす言葉	面接授業	予習：P35～40 復習：P35～40 （1時間）
9	9回目	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーション技術	面接授業	予習：P43～57 復習：P43～57 （1時間）
10	10回目	コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術	面接授業	予習：P59～70 復習：P59～70 （1時間）
11	11回目	演習3-1 ・自分のコミュニケーションスタイルを知る ・開かれた質問と閉ざされた質問使い分け	面接授業	復習：p83 演習内容の理解を深める （1時間）
12	12回目	演習2-3 ・リフレーミングのトレーニング ・正確に伝える技法	面接授業	復習：p58 演習内容の理解を深める （1時間）
13	13回目	家族とのコミュニケーション ・家族との関係づくり ・家族への助言・指導・調整	面接授業	予習：P168～181 復習：P168～181 （1時間）
14	14回目	家族関係と介護ストレスへの対応 ・家族関係のとらえ方 ・家族の介護ストレスへの対応	面接授業	予習：P183～189 復習：P183～189 （1時間）
15	15回目	復習・まとめ	面接授業	予習：P2～P256 復習：テスト範囲内見直し（1時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修時間 15時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版/飯干紀代子他/2022年/中央法規	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料配布	
履修条件		
履修上の注意	介護福祉士の専門性の柱の一つが、コミュニケーションです。この授業ではその技術について学びます。予習、復習をすることでその理解が深まります。自学をしっかりと取り組んでください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

コミュニケーションB

更新日：2026/05/19 15:15:49

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	CG201
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	1	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

コミュニケーション障害への対応の基本を学び、その支援の基礎を理解することができる。利用者支援において重要となる、介護におけるチームのコミュニケーションの技術について理解することができる。

- ①対象者の特性に応じたコミュニケーションについて理解することができる。
- ②チームのコミュニケーションの意義・目的を理解することができる。
- ③コミュニケーションの視点から、記録の意義を理解することができる。
- ④事例検討を行う意義・目的を理解することができる。

授業における到達目標

1	演習の実践においてクラスメイトと親和的な態度でかわり取り組むことができる。
2	コミュニケーション対象者の特徴を学ぶことで、さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を理解できる。
3	介護におけるチームのコミュニケーション技術が何かを理解することができる。
4	コミュニケーション障害がある人の特徴を学ぶことで、生活への支障(課題)を考える事ができる。
5	積極的に学習(演習・レポート作成等)ができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標 (番号のみ記載)	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	グループワーク	10%
確かな専門的知識や技能	2 3 4	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	レポート	10%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験60%、レポート20%、グループワーク10%、授業参加態度10%、で評価する。
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	事例検討に関する技術 事例研究におけるコミュニケーションの基本姿勢	面接授業 オンライン可	予習：p242～p249、p254～p256 (1.0h)
2	2回目	記録の技術 記録の意義、目的、種類 記録の方法と書き方 記録の実際	面接授業 オンライン可	予習：p207～p2226、 (1.0h)
3	3回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害への対応の基本	面接授業 オンライン可	予習：p74～p83 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
4	4回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 視覚障害、聴覚障害、構音障害のある人への支援	面接授業	予習：p84～p105 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
5	5回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 視覚障害、聴覚障害、構音障害のある人への支援	面接授業	予習：p84～p105 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
6	6回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 失語症、認知症の人への支援	面接授業	予習：p106～p123の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)

7	7回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 失語症、認知症の人への支援	面接授業	予習：p106～p123の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
8	8回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 失語症、認知症の人への支援	面接授業	予習：p106～p123の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
9	9回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 演習3-2 構音障害 演習3-3 失語症	面接授業	復習：これまでの講義内容 (1.0h)
10	10回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション うつ病・抑うつ状態、統合失調症の人への支援	面接授業	予習：p124～p133 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
11	11回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 知的障害・発達障害のある人への支援	面接授業	予習：p134～p148 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
12	12回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 高次脳機能障害のある人への支援	面接授業	予習：p149～155 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
13	13回目	対象者の特性に応じたコミュニケーション 高次脳機能障害のある人への支援	面接授業	予習：p149～155 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
14	14回目	介護におけるチームのコミュニケーション ・チームのコミュニケーションとは ・報告・連絡・相談の技術	面接授業	予習：p198～206 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
15	15回目	復習・まとめ	面接授業	復習：これまでの講義内容 (1.0h)
16	16回目	定期試験		授業外学修時間 15時間

その他

科目 (教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版/飯干紀代子他/2022年/中央法規	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料配布	
履修条件		
履修上の注意	介護福祉士の専門性の柱の一つが、コミュニケーションです。この授業ではその技術について学びます。予習、復習をすることでその理解が深まります。自学をしっかりと取り組んでください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

生活支援技術A

更新日：2026/05/19 15:15:50

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG104
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	4	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点より、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ。チームアプローチのあり方・室内環境のあり方・移動・移乗等、ADL支援における具体的な介護技術を学ぶ。

授業における到達目標

1	自ら考え、適切に判断し継続して行動することができる
2	生活支援技術の専門的知識を学び、その知識を根拠として技能を実践することができる。
3	かわりを示すための基本動作、納得と同意を得る技法を実践することができる。
4	指導したことを実践し、その結果を報告しながら疑問点を相談することができる。
5	尊厳を支える介護とはどのような介護か考えることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	演習・授業参加態度	10%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	演習・授業参加態度	10%
課題解決能力	4	演習・授業参加態度	10%
主体的に学ぶ力	5	演習・授業参加態度	10%
合計			100%

補足事項

演習・授業への参加・態度を40%、定期試験で60%の割合で評価します。
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行なう。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「生活支援の理解」（講義） ・生活支援の基本的考え方 テキスト 生活支援技術Ⅰ	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストⅠ P2～P12 (1時間)
2	2回目	「生活支援の理解」（講義） ・生活支援と介護過程 ・生活支援とチームアプローチ	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストⅠ P13～P36 (0.5時間) 復習：テキストⅠ P13～P36 (0.5時間)
3	3回目	「住環境の整備」（講義） ・住まいの役割と機能 ・生活空間	面接授業	予習：テキストⅠ P38～P53 (0.5時間) 復習：テキストⅠ P38～P53 (0.5時間)
4	4回目	住環境の整備」（講義） ・快適な室内環境 ・安全に暮らすための生活環境 ・住環境の整備	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストⅠ P54～P82 (0.5時間) 復習：テキストⅠ P54～P82 (0.5時間)
5	5回目	「休息・睡眠の介護」（講義） 休息と睡眠とは テキスト 生活支援技術Ⅱ	面接授業 オンライン対応可	面接授業 オンライン対応可

6	6回目	「休息・睡眠の介護」 ベッドメイキングの方法について学ぶ (演習)	面接授業	予習：テキストⅡ P229～p253 (0.5時間) 復習：ベッドメイキング練習 (0.5時間) P232、p236のAR (COCOARにて) 確認
7	7回目	「休息・睡眠の介護」 ベッドメイキングの方法について学ぶ (演習)	面接授業	予習：テキストⅡ P229～p253 (0.5時間) 復習：ベッドメイキング練習 (0.5時間)
8	8回目	「休息・睡眠の介護」 ベッドメイキングの方法について学ぶ (演習)	面接授業	復習：ベッドメイキング練習 (1時間)
9	9回目	「休息・睡眠の介護」 ベッドメイキングの方法について学ぶ (実技テスト)	面接授業	予習：ベッドメイキング練習 (1時間)
10	10回目	「休息・睡眠の介護」 ベッドメイキングの方法について学ぶ (実技テスト)	面接授業	予習：ベッドメイキング練習 (1時間)
11	11回目	「自立に向けた移動の介護」(講義) ・自立した移動とは ・自立に向けた移動・移乗の介護 テキスト 生活支援技術Ⅰ	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストⅠ P84～134 (1時間)
12	12回目	「移動の介護」 (演習) ・起居動作を意識して実践 ・起居動作の介助の実践 ・ベッド上での体位変換の介助の実践 (上方移動・水平移動) ・仰臥位から側臥位の介助 ・起き上がりから端座位への介助 ・端座位から立位への介助	面接授業	予習：テキストⅠ P89～P123 復習：起居動作の介助・上方移動・水平移動練習実施 (0.5時間) 体位変換・起き上がり・立ち上がりの介助練習実施 (0.5時間) P100、103、106、108、111、118のAR (COCOARにて) 確認
13	13回目	「移動の介護」 (演習) ・起居動作を意識して実践 ・起居動作の介助の実践 ・ベッド上での体位変換の介助の実践 (上方移動・水平移動) ・仰臥位から側臥位の介助 ・起き上がりから端座位への介助 ・端座位から立位への介助	面接授業	予習：テキストⅠ P96～P123 復習：起居動作の介助・上方移動・水平移動練習実施 (0.5時間) 体位変換・起き上がり・立ち上がりの介助練習実施 (0.5時間) P100、103、106、108、111、118のAR (COCOARにて) 確認
14	14回目	「移動の介護」 ・起居動作介助 (実技テスト)	面接授業	予習：起居動作の練習 (1時間)
15	15回目	「自立に向けた移動の介護」(講義) ・歩行の介助 ・車いすの介助 ・移動の介護における多職種連携の必要性	面接授業	予習：テキストⅠ P135～192を読み、内容を理解する (1時間)
16	16回目	「自立に向けた移動の介護」 (演習) ・杖歩行介助の実践 (2動作歩行・3動作歩) ・杖歩行介助の実践 (段差越え・階段の介助)	面接授業	予習：テキストⅠ P137～P145を読む (0.5時間) 復習：杖歩行介助練習実施 (0.5時間)
17	17回目	「自立に向けた移動の介護」 (演習) ・ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動 ・ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動 (段差越え・坂道)	面接授業	予習：テキストⅠ P146～P182を読む (0.5時間) 復習：ベッドから車いすへの移乗練習 (0.5時間) p153、155のARにて確認
18	18回目	「自立に向けた移動の介護」 (演習) ・ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動 ・ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動 (段差越え・坂道)	面接授業	予習：テキストⅠ P146～P182を読む (0.5時間) 復習：ベッドから車いすへの移乗練習 (0.5時間) p159、161、164のAR (COCOARにて) 確認
19	19回目	「自立に向けた移動の介護」 ベッドから車いすへの移乗・車いす移動介助 (実技テスト)	面接授業	ベッドから車いすへの移乗・車いす移動介助練習 (1時間)
20	20回目	「自立に向けた移動の介護」 ベッドから車いすへの移乗・車いす移動介助 (実技テスト)	面接授業	ベッドから車いすへの移乗・車いす移動介助練習 (1時間)

21	21回目	「自立に向けた身じたくの介護」(講義) ・自立した身じたくとは ・自立に向けた身じたくの介護 テキスト 生活支援技術Ⅱ	面接授業	予習：テキストⅡP2～P27 (0.5時間) 復習：タオルの巻き方、顔の拭き方、爪の切り方、P20のAR (COCOARにて) (0.5時間)
22	22回目	「自立に向けた身じたくの介護」(演習) ・口腔ケア	面接授業	予習：テキストⅡP28～P47 (0.5時間) 復習：歯ブラシの持ち方の確認、ガーグルベースを使ったうがい (0.5時間)
23	23回目	「自立に向けた食事の介護」(講義) ・自立した食事とは ・自立に向けた食事の介護 ・食事の介護における多職種との連携 テキスト 生活支援技術Ⅱ	面接授業	予習：テキストⅡP74～105 (1時間)
24	24回目	「自立に向けた食事の介護」(演習) ・食事の介助を行うにあたって ・介護の基本原則にのっとった食事の介護 ・利用者の状態に応じた食事の介助(食卓・ベッド上)	面接授業	復習：テキストⅡP74～105 (1時間) P88、93、96のAR (COCOARにて) 確認
25	25回目	「自立に向けた食事の介護」(演習) ・食卓の食事介助、車椅子での食事介助の方法 ・ベット上での食事の介助	面接授業	復習：テキストⅡP74～105 (1時間) P88とP93のAR (COCOARにて) 確認
26	26回目	「身支度の介護」(講義) ・利用者の状態や状況を確認する ・自立に向けた介護を行う際のポイント ・衣服の着脱の介助 ・身支度の介護における多職種との連携 テキスト 生活支援技術Ⅱ	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストⅡP6～P7、P48～71 (1時間)
27	27回目	「身支度の介護」(演習) 上着の着脱 (前開き・かぶり上着、ズボン)	面接授業	予習：テキストP51～P58を (0.5時間) 復習：上着の着脱の練習 (0.5時間) P61、63のAR (COCOARにて) 確認
28	28回目	「身支度の介護」(演習) ベット上での衣服着脱 (上・下)	面接授業	復習：衣服着脱の練習 (1時間)
29	29回目	「身支度の介護」(演習) ベット上での衣服着脱 (上・下)	面接授業	復習：衣服着脱の練習 (1時間)
30	30回目	「身支度の介護」 衣服着脱 (実技テスト)	面接授業	復習：身支度の介護の内容を理解する (1時間)
31	31回目	「身支度の介護」 衣服着脱 (実技テスト)	オンライン対応可	復習：身支度の介護の内容を理解する (1時間)
32	32回目	「入浴の介護」 ・自立した入浴・清潔保持とは ・自立した入浴の一連の流れ ・自立に向けた入浴・清潔保持の介護をするために介護福祉職がすべきこと ・入浴の可否と清潔にする方法の選択 個浴、機械浴、いすでのシャワー浴	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストP108～127,を読む(Ⅱ) (1時間)
33	33回目	「入浴の介護」 ・入浴の可否と清潔にする方法の選択 全身清拭、部分清拭、陰部洗浄、手浴、足浴、洗髪	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストP128～148を読む(Ⅱ) (1時間)
34	34回目	「入浴の介護」 ・皮膚のしくみについて ・からだの部位について	面接授業 オンライン対応可	予習：こころとからだのしくみ P180～P188、P43を読む (0.5時間) 復習：からだの部位を覚える (0.5時間)
35	35回目	「入浴の介護」 ・入浴、清潔保持のための道具、用具 ・入浴、清潔保持の介護における多職種との連携	面接授業	予習：テキストP149～159を読んでおく(Ⅱ) (0.5時間) 復習：入浴の為の福祉用具を覚えておく (0.5時間)
36	36回目	「入浴の介護」演習 ・入浴介助：手浴 ・入浴介助：足浴	面接授業	予習：テキストP139～P145を読んで、手順を理解しておく(Ⅱ) 復習：手浴・足浴の介助方法の練習 (1時間)

37	37回目	「入浴の介護」演習 ・入浴介助：手浴 ・入浴介助：足浴	面接授業	予習：テキストP139～P145を読んで、手順を理解しておく（Ⅱ） 復習：手浴・足浴の介助方法の練習（1時間）
38	38回目	「入浴の介護」演習 ・入浴介助：手浴 ・入浴介助：足浴	面接授業	予習：テキストP139～P145を読んで、手順を理解しておく（Ⅱ） 復習：手浴・足浴の介助方法の練習（1時間）
39	39回目	「入浴の介護」演習 ・入浴介助：シャワー浴	面接授業	予習：テキストP127を読んで、手順を理解しておく（Ⅱ） 復習：シャワー浴介助の練習（1時間）
40	40回目	「入浴の介護」 入浴介助（個浴）	面接授業	予習：テキストP115～P120を読み、手順を理解しておく（Ⅱ） 復習：個浴介助方法の練習 （予習復習1時間）
41	41回目	「入浴の介護」 入浴介助個浴（演習）	面接授業	予習：テキストP115～P120を読み、手順を理解しておく 復習：個浴介助方法の練習 （予習復習1時間）
42	42回目	「入浴の介護」 入浴介助個浴（演習）	面接授業	予習：テキストP115～P120を読み、手順を理解しておく 復習：個浴介助方法の練習 （予習復習1時間）
43	43回目	「入浴の介護」 個浴実技テスト	面接授業	復習：個浴介助方法の練習 （1時間）
44	44回目	「入浴の介護」 個浴実技テスト	面接授業	復習：個浴介助方法の練習 （1時間）
45	45回目	「自立に向けた排泄の介護」 ・自立した排泄とは ・自立した排泄の一連の流れ ・自立に向けた排泄の介護をするために介護福祉職がすべきこと ・排泄方法の選択	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストP162～P168を読む（Ⅱ）（1時間）
46	46回目	「排泄の介護」 ・頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応 ・排泄に関するさまざまな介助 ・排泄の介護における多職種連携の必要性 ・多職種の役割と介護福祉職との連携	面接授業 オンライン対応可	予習：テキストP198～P216を読む（Ⅱ）（1時間）
47	47回目	「排泄の介護」 ・歩行できる利用者の介助 ・車いす利用者の介助	面接授業	予習：テキストP168～174 を読み、手順を覚えておく 復習：Pトイレ介助の練習 （予習・復習時間1時間）
48	48回目	「排泄の介護」 ポータブルトイレ介助（演習）	面接授業	予習：テキストP174～179 を読み、手順を覚えておく（Ⅱ） 復習：Pトイレ介助の練習 （予習・復習時間1時間）
49	49回目	「排泄の介護」 尿器を使用した介助方法（演習）	面接授業	予習：テキストP182～185、P132～134を読み、手順 を覚えておく。（Ⅱ） 復習：尿器での介助練習 （予習・復習時間1時間）
50	50回目	「排泄の介護」 差し込み便器での介助方法（演習）	面接授業	予習：テキストP186～190を読み、手順を覚えておく 復習：差し込み便器での介助練習 （予習・復習時間1時間）
51	51回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助～排尿～（演習）	面接授業	予習：テキストP191～197を読み、手順を覚えておく （Ⅱ） 復習：おむつでの排泄介助練習 （予習・復習時間1時間）
52	52回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助～排便～（演習）	面接授業	予習：テキストP187～193を読み、手順を覚えておく （Ⅱ） 復習：おむつでの排泄介助練習 （予習・復習時間1時間）
53	53回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助実技テスト	面接授業	復習：おむつでの排泄介助練習（1時間）
54	54回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助実技テスト	面接授業	復習：おむつでの排泄介助練習（1時間）
55	55回目	「人生の最終段階における介護」 人生の最終段階の意義と介護の役割	オンライン対応可	予習：テキストP250～P262 を読む（1時間）

56	56回目	「人生の最終段階における介護」 人生の最終段階の介護における多職種との連携	オンライン対応可	予習：テキストP263～P284 を読む（1時間）
57	57回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	面接授業	復習：これまでの授業内容（1時間）
58	58回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	面接授業	復習：これまでの授業内容（1時間）
59	59回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	面接授業 オンライン対応可	復習：これまでの授業内容（1時間）
60	60回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	面接授業 オンライン対応可	復習：これまでの授業内容（1時間）
61	61回目	定期テスト		授業外学修時間 60時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	①最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」第3版/浦尾和江他/2026年/中央法規出版 ②最新 介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」第3版/櫻井恵美他/2026年/中央法規出版	①9784824303417 ②9784824303424
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布します	
履修条件		
履修上の注意	実習室での演習には、教室での講義を復習して臨んでください。 演習は「考える⇒実践する⇒考える」この繰り返しをより多く実践した学生が上達します。 演習は、ドレスコード（エプロン・ジャージ・室内履き等）を守る事。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	※実習室での演習後、各自、実習室にて実技演習を自習してください。実技テストに合格するためには、実習室での実技練習が必要です。実習室のカギは、研究室にて貸し出します。	

生活支援技術B

更新日：2026/05/19 15:15:52

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	CG105
担当教員	大河内 友美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの種類	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

『食生活と栄養・調理』に関する幅広い知識を得るための講義と、その理解を深めるための演習を通して、利用者の食生活における支援技術を習得する。

授業における到達目標

1	生活支援技術の調理に関する知識と技術の必要性を理解し説明できる
---	---------------------------------

評価方法

資質・能力	授業における到達目標 （番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	定期試験	30%
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力		授業・演習への参加	10%
合計			40%
補足事項			
遅刻、早退により調理実習に参加できなかった場合は、欠席とみなします。			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「食生活の基礎知識」 食文化、行事食、食生活の変化	面接授業	予習：教科書P217～218（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
2	2回目	「栄養素の理解」 五大栄養素 働きと欠乏症	面接授業	予習：教科書P218～P222（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
3	3回目	「調理の基本（1）」 調理器具の使い方、米の調理、野菜の切り方	面接授業	予習：教科書P232～P234（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
4	4回目	「調理の基本（2）」 調理器具の使い方、野菜の切り方	面接授業	予習：教科書P234～P235（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
5	5回目	「調理による高齢者への配慮（1）」 咀嚼・嚥下困難な食事の対応	面接授業	予習：教科書P235（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
6	6回目	「調理による高齢者への配慮（2）」 増粘剤応用・調理のとりよめつけ方	面接授業	予習：教科書P236～P239（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
7	7回目	「在宅での調理の支援（1）」 卵を使った料理	面接授業	予習：教科書P238～P240（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
8	8回目	「在宅での調理の支援（1）」 卵を使った料理	面接授業	予習：教科書P244（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
9	9回目	「調理支援、在宅での食事療法の支援の（1）」 減塩の必要性について	面接授業	予習：教科書P293～P299（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
10	10回目	「調理支援、在宅での食事療法の支援の（1）」 減塩を意識した調理	面接授業	予習：教科書P293～P299（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）
11	11回目	「在宅での調理の支援（2）」 保存食を利用した調理	面接授業	予習：教科書P244（0.5時間） 復習：教科書該当箇所（0.5時間）

12	12回目	「高齢者の身体機能と栄養」 楽しい食事の演出1	面接授業	予習：教科書P241（0.5時間） 復習：これまでの講義内容（0.5時間）
13	13回目	「高齢者の身体機能と栄養」 楽しい食事の演出2	面接授業	予習：教科書P241（0.5時間） 復習：これまでの講義内容（0.5時間）
14	14回目	「高齢者の身体機能と栄養」 まとめ	面接授業	予習：教科書P241（0.5時間） 復習：これまでの講義内容（0.5時間）
15				授業外学修 14時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	生活支援技術 1	
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	実習中の貴重品管理は各自で行ってください。実習中の携帯電話・スマートフォンの使用は原則禁止とします。（特別な配慮が必要な場合は事前に申し出を行ってください。）	
オフィスアワー	大河内：月曜日放課後（研究室）	
備考・メッセージ	調理実習に必要な、エプロン、三角巾、調理靴を忘れず持参してください。	

生活支援技術C

更新日：2026/05/19 15:15:53

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG302
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必修区分	授業形態	
	2年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

多種多様な障害のある利用者に対して、様々な手法の生活援助技術を用いて、安全に援助できる知識・技術を習得できる

授業における到達目標

1	内部障害・精神障害の理解と生活支援について理解出来る。視覚・聴覚・言語障害等の理解と生活支援について理解できる。知的・発達障害、高次脳機能障害等の理解と生活支援について理解できる。
2	障害に応じた生活支援技術とは何か、について説明できる。終末期について考え、その生活支援について理解できる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標 (番号のみ記載)	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	2	定期試験レポート課題への取り組み	50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	4	定期試験レポート課題への取り組み	50%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
課題等におけるフィードバックは授業の中で行っていきます。			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	心臓機能障害のある人の理解と生活	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
2	2回目	心臓機能障害のある人の理解と生活支援介護技術の展開と他職種との連携・協	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
3	3回目	腎臓機能障害のある人の理解と生活支援、介護技術	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
4	4回目	呼吸機能障害のある人の理解と支援方法介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
5	5回目	呼吸機能障害のある人の理解と支援方法介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
6	6回目	膀胱・直腸機能障害の特性と支援方法及び留意点	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
7	7回目	肝臓機能障害の特性と、その支援方法及び留意点	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
8	8回目	精神障害者の特性や生活の理解、生活支援方法	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
9	9回目	精神障害者に対する介護技術の展開と他職種との協働と連携	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
10	10回目	障害をもつ利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 社会福祉士及び介護福祉士の定義の変遷と利用者のニーズについて	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
11	11回目	視覚障害のある人の生活の理解および支援と環境整備	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
12	12回目	視覚障害者に対する介護技術の展開と他職種の役割と協働・連携 社会資源の利用・視覚障害のある人の生活	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)

13	13回目	聴覚障害に応じた介護 聞こえの障害・聴力検査・補聴器について	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
14	14回目	聴覚障害者に対するコミュニケーションと支援	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
15	15回目	言語障害のある人の特徴および配慮	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
16	16回目	重複障害に応じた介護 聴覚障害および言語障害のある人の生活	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
17	17回目	盲ろう者と生活の理解および介護技術の展開 他職種との役割と協働、連携（演習）	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
18	18回目	運動機能障害と日常生活動作（ADL）	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
19	19回目	運動機能障害のある人の生活支援（1） 運動器疾患による障害と支援	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
20	20回目	運動機能障害のある人の生活支援（2）	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
21	21回目	知的障害のある人と生活の理解・心理的理解・医学的 理解、他職種の役割と協働・連携	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
22	22回目	知的障害者の地域生活における課題および演習	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
23	23回目	障害者に関する法律と相談支援事業の現状と課題	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
24	24回目	高次脳機能障害のある人と生活の理解	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
25	25回目	高次脳機能障害のある人の残存能力の拡大およびネッ トワークづくりと介護技術の展開	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
26	26回目	発達障害の特性と個別支援計画および介護技術の展開	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
27	27回目	発達障害のある人に対する他職種の役割と協働、連携	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
28	28回目	重症心身障害のある人の生活の理解と支援 介護技術の展開および連携と協働	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
29	29回目	終末期ケアの意味と理念	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
30	30回目	終末期の介護における他職種の役割と協働、連携	面接授業	予習：(1h)、復習：(1h)
31	31回目	定期試験		授業外学修時間60時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行 規則に定める科目区 分または事項等		
数理・データサイエ ンス・AI教育プログ ラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	新介護福祉士養成講座8『生活支援技術Ⅲ』第3版 介護福祉士養成講座編 集委員会 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意		
オフィスアワー	授業の前後で質問などを受け付けます	
備考・メッセージ		

生活支援技術D

更新日：2026/05/19 15:15:55

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG303
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

- ①利用者の生活歴や個性を踏まえ、アセスメントの視点からレクリエーション援助を提案できる技術を習得する。
 ②1年次に学んだ、移動・移乗、身じたく、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活支援技術を復習し、根拠のある生活支援技術の基本を身につける。
 ③介護実習を通して学んだ知識、技術をもとに、利用者のアセスメントに即した生活支援技術の演習をグループで話し合いながらとりくむことができる。その中から技術の実践力、応用力を身につける。

授業における到達目標

1	演習の実践において、自らの課題に取り組みながらクラスメイトの課題にも共に向き合いチームで行動することができる。
2	生活支援技術の専門的知識と技術の根拠を理解して、実践することができる。
3	利用者の特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。
4	ストレンクス・エンパワメントの知識・技能を生活支援の場面で効果的に活用することができる
5	自らの生活支援技術の課題を見つけ、その改善に取り組むことができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	演習	10%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	演習	10%
課題解決能力	4	演習	10%
主体的に学ぶ力	5	演習・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験60%、演習30%、演習・授業への参加・態度10%で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Meetsを使用する ・課題等におけるフィードバックは授業の中で行っていきます。 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回	「レクリエーション援助」 レクリエーションの意義・目的	面接授業（オンライン対応可能）	予習：これまでどのようなレクリエーション活動の経験があるかまとめておく（1時間）
2	2回	レクリエーション援助 レクリエーション支援の考え方	面接授業（オンライン対応可能）	復習：配布資料 予習：配布資料（1時間）
3	3回	ライフスタイルとレクリエーション 生涯発達の視点、人間の欲求と遊び	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまで学修した内容（1時間） 予習：配布資料
4	4回	ライフスタイルとレクリエーション 老年期の特徴と課題、対応するレクリエーションの視点	面接授業（オンライン対応可能）	復習：配布資料 予習：配布資料（1時間）
5	5回	計画立案方法 三つの基本的支援（個人・集団・環境）の具体例	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまで学修した内容（1時間） 予習：配布資料
6	6回	計画立案方法 レクリエーション計画（説明・班分け）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまで学修した内容（1時間） 予習：配布資料

7	7回	レクリエーション計画（事業計画作成）	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
8	8回	レクリエーション計画 レクリエーションを作成する	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
9	9回	レクリエーション計画 レクリエーションを作成する	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
10	10回	レクリエーション計画 レクリエーション発表の練習をする	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
11	11回	レクリエーション計画 レクリエーション発表の練習をする	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
12	12回	レクリエーション発表 レクリエーション実技試験	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
13	13回	レクリエーション発表 レクリエーション実技試験	面接授業	復習・予習これまで学修した内容（1時間）
14	14回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 個人・グループワーク	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
15	15回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 個人・グループワーク	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
16	16回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 個人・グループワーク 発表	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
17	17回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する	面接授業	復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 （1時間）
18	18回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り、文献などを用いて事例研究を作成する	面接授業	復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 （1時間）
19	19回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り	面接授業	復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 （1時間）
20	20回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り	面接授業	復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 （1時間）
21	21回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 生活支援技術の実践を振り返り	面接授業	復習：長期実習中の生活支援技術 予習：テキスト・文献等 （1時間）
22	22回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（移動）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
23	23回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（移乗）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
24	24回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（身支度）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
25	25回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（入浴）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
26	26回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（排泄）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
27	27回	長期実習における生活支援技術 長期実習での生活支援技術の振り返り 実践内容の検証（睡眠）	面接授業	予習：長期実習中の生活支援技術（1時間）
28	28回	生活支援技術実技試験 生活支援技術総合振り返り（応用）	面接授業	復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について（1時間）
29	29回	生活支援技術実技試験 生活支援技術実技試験 練習	面接授業	復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について（1時間）
30	30回	生活支援技術実技試験 国試過去問実技試験	面接授業	復習：生活支援技術全般について 予習：生活支援技術全般について（1時間）
31	31回	定期試験		授業外学修時間 30時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	①最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」第3班/浦尾和江他/2026年/中央法規出版	①9784824303417
	②最新 介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」第3班/櫻井恵美他/2026年/中央法規出版	②9784824303424
	③最新 介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」第2班/櫻井恵美他/2022年/中央法規出版	③9784805883976
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	①日本レクリエーション協会 「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会出版。必要に応じて資料を配布	
	②「楽しさをおとした心の元気づくり」日本レクリエーション協会出版 必要に応じて資料明示	
履修条件		
履修上の注意	演習では、1年生時に学んだ、生活支援技術Aの授業・演習内容をしっかり復習して授業に臨んでください。演習は「考えて⇒実践して⇒考える」この繰り返しを実践した学生が上達します。各自、空きコマを利用して、実習室での実技練習に取り組んでください。	
オフィスアワー	授業時間後や空きコマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください	

介護過程Ⅰ

更新日：2026/05/19 15:15:56

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	CG106
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	1	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護過程の意義・目的を学び、生活支援における介護過程の必要性を理解する。介護過程の展開の方法を学び、アセスメント（ICF）の方法について理解を深める。

- ①介護過程の意義・目的を理解することができる。
- ②介護過程とICFの関係を理解することができる。
- ③生活支援における介護過程の必要性を理解出来る。
- ④介護過程の展開について理解できる。
- ⑤ICFモデルを活用したアセスメントを理解できる。

授業における到達目標

1	介護過程の展開が、介護が必要な人の生活の継続性のために必要であることを理解出来る。
2	ICFモデルを活用した情報収集について理解できる。
3	丁寧な字で、介護過程資料を書くことができる。
4	ニーズ、生活課題についてICFモデルを活用しながら、情報を収集することができる。
5	介護過程を実践していく上での、生活課題を理解し、積極的に演習をすることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1、2	定期試験	70%
コミュニケーション能力	3	レポート	10%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では 定期試験70%、レポート20%、授業への参加・態度10%の割合で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する
- ・課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「介護過程とは」 介護過程の展開と基本的視点	面接授業（オンライン対応可能）	予習：テキストp2～6 （1時間）
2	2回目	介護過程の全体像	面接授業（オンライン対応可能）	復習：テキストp2～6 予習：テキストp6～9 （1時間）
3	3回目	「生活支援の考え方と介護過程の必要性①」 生活支援における介護過程の意義と事例検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：テキストp6～9 予習：p12～p15 （1時間）
4	4回目	「生活支援の考え方と介護過程の必要性②」 生活支援における介護過程の意義と事例検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：p12～p15 予習：p16～p17 （1時間）

5	5回目	「介護過程の理解」 アセスメントとは	面接授業	予習：p20～p21 (1時間)
6	6回目	介護過程の展開	面接授業	復習：p20～p21 予習：p22～p24 (1時間)
7	7回目	アセスメント	面接授業	復習：p22～p24 予習：p25～p27 (1時間)
8	8回目	介護過程の展開の8つの視点①	面接授業	復習：p25～p27 (1時間)
9	9回目	介護過程の展開の8つの視点②	面接授業	復習：第8回授業内容 (1時間)
10	10回目	アセスメント事例演習 (場面1・場面2)	面接授業	復習：5回～9回授業 (1時間)
11	11回目	アセスメントの方法 知識・方法・観察の視点(図・表)	面接授業	予習：p27～p28 (1時間)
12	12回目	アセスメント ICFモデル	面接授業	予習：p29～p33 (1時間)
13	13回目	アセスメント ICFモデル① 方法・留意点	面接授業	復習：p29～p33 (1時間)
14	14回目	アセスメント ICFモデル② 方法・留意点	面接授業	復習：p29～p33 (1時間)
15	15回目	アセスメント ICFモデル③ 基礎例題・演習	面接授業	復習：これまでの授業 (1時間)
16		定期試験		授業外学修時間 15時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程 第2版」中央法規出版	978-4805883983
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	
履修条件		
履修上の注意	介護過程は、他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を、実際の利用者の支援に向けてどのようにいかしていくかを考える科目です。次回の授業範囲(テキスト)をよく読み、その内容の理解を深めるように努力してください。そうすることで、授業の理解を深めることができます。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

介護過程Ⅱ

更新日：2026/05/19 15:15:58

開講年度	2026	開講期	3Q/7Q	ナンバリング	CG202
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	1	選択	演習	
アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）			<input checked="" type="checkbox"/>	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）				
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）				
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）				
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）			<input checked="" type="checkbox"/>	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）				
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））			<input checked="" type="checkbox"/>	

授業概要

生活支援技術やコミュニケーション技術の活用と共にアセスメント（1）ICF、（2）の概念を理解する。事例をもとに、アセスメント（1）ICF、（2）を理解する。

- ①アセスメント（1）ICFを活用し情報収集を行いながら、個別の生活課題や潜在能力について考えることができる。
- ②アセスメント（2）の目的・情報収集の方法を理解できる。
- ③アセスメント（2）における、情報の解釈・関連付け・統合化を理解できる。
- ④アセスメント（2）において、生活課題を明確化し、優先順位を付けることができる。
- ⑤事例を用いて、アセスメント（1）ICF、（2）を理解する。

授業における到達目標

1	アセスメント（1）（2）を通して分析的に考える力を身につけ、目標達成のために計画を立てることができる。
2	アセスメント（1）（2）の作成において、3領域（社会・介護・こころとからだ）の知識を活かすことができる。
3	生活課題の解決にむけて、優先順位の付け方を学ぶ事ができる。
4	アセスメント（1）（2）の作成において、多職種と連携した支援を予想しながら、生活課題の解決を考えることができる。
5	アセスメント（1）（2）の作成において、情報から生活課題を推測することができる。
6	生活課題の解決において、尊厳を支える介護を考えることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	2、3	定期試験	60%
コミュニケーション能力	4	レポート	10%
課題解決能力	5	レポート	10%
主体的に学ぶ力	6	レポート	10%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では 定期試験60%、レポート40%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する
- ・課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1		「介護過程の理解」 ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習①	面接授業（オンライン対応可能）	予習：テキストp30～p33（1時間）
2		ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習②	面接授業（オンライン対応可能）	復習：前回授業（1時間）
3		ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習③	面接授業（オンライン対応可能）	復習：前回授業（1時間）
4		アセスメント（2）の理解① 情報の解釈・関連付け・統合化	面接授業（オンライン対応可能）	復習：前回までの授業 予習：p36～p38 （1時間）

5	アセスメント(2)の理解② 情報の解釈・関連付け・統合化	面接授業	復習：前回までの授業 予習：p36～p38 (1時間)
6	アセスメント(2)の理解③ アセスメントの3つの視点	面接授業	復習：前回までの授業 予習：p36～p38 (1時間)
7	アセスメント(2)の理解④ Bさん事例演習 p45表2-5を用い、生活像からイメージを描く	面接授業	復習：p22～p24 予習：p25～p27 (1時間)
8	アセスメント(2)の理解⑤ p46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連 付け・解釈・統合化を行う	面接授業	復習：前回の授業 予習p47～p50 (1時間)
9	アセスメント(2)の理解⑥ p46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連 付け・解釈・統合化を行う	面接授業	復習：前回の授業 予習p47～p50 (1時間)
10	アセスメント(2)の理解⑦ Bさん事例演習 生活課題の明確化	面接授業	復習：前回授業 予習p50～p55 (1時間)
11	アセスメント(2)の理解⑧ Bさん事例演習 生活課題の明確化	面接授業	復習：前回授業 予習p50～p55 (1時間)
12	アセスメント(2)の理解⑨ Bさん事例演習 生活課題の優先順位	面接授業	復習：前回授業 予習：p61～p64 (1時間)
13	アセスメント(1)(2) Bさん事例	面接授業	復習：Bさん事例 (1時間)
14	アセスメント(1)(2) Bさん事例	面接授業	復習：これまでの授業 (1時間)
15	介護計画の立案① 個別援助計画とは Bさん事例にて優先順位の設定	面接授業	復習：テキストp33～p55 予習：p59～p64 (1時間)
16	定期試験		授業外学修時間 15時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行 規則に定める科目区 分または事項等		
数理・データサイエ ンス・AI教育プログ ラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程 第2版」中央法規出版	978-4805883983
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	
履修条件	介護過程の展開において、アセスメント(2)は非常に重要です。授業の理解を深めるために、次の授業の予習(テキストを読む)を行ってください。そうすることで授業の理解が深まります。	
履修上の注意		
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

介護過程Ⅲ

更新日：2026/05/19 15:15:59

開講年度	2026	開講期	4Q/8Q	ナンバリング	CG203
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年～2年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

アセスメント（1）、（2）を作成し、個別援助計画を立案することができる。評価（モニタリング）の意義と目的を理解し、計画の継続・修正をすることができる。事例演習に取り組み、学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合することができる。

- ①介護過程Ⅱで学修した内容を基礎として、事例における介護過程の展開が出来る。
- ②アセスメント（1）において、個別の生活課題、潜在能力を見極めることができる。
- ③アセスメント（2）を作成できる。
- ④アセスメント（1）（2）から、個別援助計画を立案できる。
- ⑤評価（モニタリング）について理解できる。
- ⑥自立支援に沿った個別援助計画の立案・実施・評価・他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。
- ⑦3領域「こころとからだのしくみ」「社会の理解」「介護」の分野から学んだことを介護過程の展開に活かすことができる。

授業における到達目標

1	個性を理解し、本人の望む生活を第一に考え、分析的に個別援助計画を立案することができる。
2	アセスメント（1）（2）によって、その人の思いを推測し、生活課題を導き出すことができる。
3	3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案することができる。
4	利用者の特性に応じた個別援助計画の立案をすることができる。
5	ストレングス・エンパワメントの知識、技能を効果的に活用し介護過程の展開ができる。
6	課題の改善について評価することができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	2、3	定期試験	60%
コミュニケーション能力	4	レポート	10%
課題解決能力	5	レポート	10%
主体的に学ぶ力	6	レポート	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験60%、レポート40%で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する ・課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1		「介護過程の理解」 介護計画の立案② Bさん事例にて支援内容・支援方法の決定	面接授業（オンライン対応可能）	復習：前回授業 予習：p 65～p 67 （1時間）
2		事例1 Aさん演習 アセスメント（1）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：Bさん事例 予習：p 86～p 91 （1時間）
3		事例1 Aさん演習 アセスメント（1）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：p 33～p 55 予習：p 86～p 91 （1時間）

4	「介護過程の実践的展開」 事例1 Aさん演習 アセスメント(2)	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p86~p91 予習:p92~p93 (1時間)
5	事例1 Aさん演習 アセスメント(2)	面接授業	復習:p92~p93 予習:p92~p93 (1時間)
6	事例1 Aさん演習 個別援助計画	面接授業	復習:p86~p93 予習:p94~p95 (1時間)
7	事例2 Dさん演習 アセスメント(1)	面接授業	復習:Bさん・Aさん事例 予習:p99~p104 (1時間)
8	事例2 Dさん演習 アセスメント(1)	面接授業	復習:p99~p104 予習:p99~p104 (1時間)
9	事例2 Dさん演習 アセスメント(2)	面接授業	復習:p99~p104 予習:p105~p106 (1時間)
10	事例2 Dさん演習 アセスメント(2)	面接授業	復習:p99~p104 予習:p105~p106 (1時間)
11	事例2 Dさん演習 個別援助計画	面接授業	復習:p99~p106 予習:p107~p108 (1時間)
12	事例3 Hさん演習 アセスメント(1)	面接授業	復習:Bさん・Aさん事例 予習:p112~p116 (1時間)
13	事例3 Hさん演習 アセスメント(1)	面接授業	復習:p112~p116 予習:p117~p118 (1時間)
14	事例3 Hさん演習 アセスメント(2)	面接授業	復習:p112~p118 予習:p117~p118 (1時間)
15	事例3 Hさん演習 アセスメント(2)	面接授業	復習:p112~p118 予習:p117~p118 (1時間)
16	事例3 Hさん演習 個別援助計画の作成	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p119~p120 (1時間)
17	事例3 Hさん演習 個別援助計画 個別援助計画の作成	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p119~p120 (1時間)
18	事例1 Hさん演習 個別援助計画 個別援助計画の解説	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p119~p120 (1時間)
19	事例1 Hさん演習 個別援助計画 個別援助計画の作成(仮定:長期実習の実践として)	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p119~p120 (1時間)
20	事例1 Hさん演習:個別援助計画の解説 データを読み解く:効果の計測について。長期実習における実践結果の数値化と分析	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p119~p120 (1時間)
21	事例1 Hさん演習 評価の意義	面接授業(オンライン対応可能)	復習:p112~p118 予習:p82~p86、 p129~p131(1時間)
22	事例1 Aさん演習 個別援助計画作成	面接授業	復習:p86~p93 予習:p94~p95 (1時間)
23	事例1 Aさん演習 個別援助計画作成 解説	面接授業	復習:p86~p93 予習:p94~p95 (1時間)
24	事例1 Aさん演習 評価 意義と目的、内容と方法 (Aさん評価)	面接授業	復習:p86~p93 予習:p75~p79 (1時間)

25	事例2 Dさん演習 個別援助計画作成	面接授業	復習：p99～p106 予習：p107～p108 (1時間)
26	事例2 Dさん演習 個別援助計画解説	面接授業	復習：p99～p106 予習：p107～p108 (1時間)
27	事例2 Dさん演習 評価(モニタリング)	面接授業	復習：p99～p106 予習：p109～p111 (1時間)
28	事例2 Dさん演習 評価(モニタリング)	面接授業	復習：p99～p106 予習：p109～p111 (1時間)
29	事例1 Hさん演習 評価(モニタリング)	面接授業	復習：p75～p79 p112～p120 予習：p121～p123 (1時間)
30	事例1 Hさん演習 評価(モニタリング) まとめ：これまでの授業のまとめ	面接授業	復習：p75～p79 p112～p120 予習：p121～p123 (1時間)
31	定期試験		授業外学修時間 30時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程 第2版」中央法規出版	978-4805883983
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	
履修条件		
履修上の注意	介護過程IIIでは、事例演習が重要なポイントです。その為には、予習を中心とした学習が大切です。予習をしている学生と、していない学生では、授業の理解に大きな差が生じます。教科書をよく読み、授業に参加してください。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

介護過程Ⅳ

更新日：2026/05/19 15:16:01

開講年度	2026	開講期	3Q/7Q	ナンバリング	CG401
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	1	選択	演習	
アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）				<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）				<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）				
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）				
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）				<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）				
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））				<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護過程の理論と演習体験を関連づけながら、介護過程の展開ができる。

- ①事例から個別援助計画が作成できる。
- ②長期実習で実践した個別援助計画の振り返りをすることができる。
- ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解できる。
- ④自身が立案した個別援助計画を他学生と意見交換しながら、自分自身に不足している視点を、グループワークを通して自ら学び取ることができる。
- ⑤介護福祉士として使命感をもち、学び続ける態度を身につけることができる。

授業における到達目標

1	グループワークにおいて他学生の意見に耳を傾け、分析的に考えてお互いに協力しながら個別援助計画を修正する事ができる。
2	3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案し、効果的な支援計画を作成することができる。
3	根拠のある介護過程展開をイメージしながら、他学生とのコミュニケーションを通して生活課題の解決策を考えることができる
4	長期実習における介護過程の展開（アセスメント（1）（2）、個別援助計画実践）の結果を評価し、課題を考え改善することができる
5	介護福祉士として、自身の将来の職業像をイメージすることが出来き、その可能性を考えることができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	グループディスカッション	10%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	グループディスカッション	10%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では 定期試験60%、レポート40%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroomを使用する
- ・課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1		「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 記録類の整備	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録類の整理 （1時間）
2		「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 事例研究論集作成の注意点 長期実習での情報共有（グループワーク）	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録の整備と実習の振り返り（1時間）
3		「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）
4		「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）

5	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる（1時間）
6	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる（1時間）
7	介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる（1時間）
8	介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：実習記録をケースレポートにまとめる（1時間）
9	介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：実習記録をケースレポートにまとめる（1時間）
10	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：チームアプローチにおける介護福祉士の役割（1時間）
11	事例を通して、介護過程の総まとめをおこなう。 アセスメント1の作成	面接授業	予習：事例を読んでおくこと。（1時間）
12	事例を通して、介護過程の総まとめをおこなう。 アセスメント2の作成	面接授業	予習：事例を読んでおくこと。（1時間）
13	事例を通して、介護過程の総まとめをおこなう。 個別援助計画の作成	面接授業	予習：事例を読んでおくこと。（1時間）
14	事例を通して、介護過程の総まとめをおこなう。 グループに分かれて、各自が作成した事例1の個別援助計画について話し合い、グループの個別援助計画を作成する。	面接授業	予習：事例を読んでおくこと。（1時間）
15	事例を通して、介護過程の総まとめをおこなう。 グループで作成した個別援助計画を発表しまとめを行う。	面接授業	予習：事例を読んでおくこと。（1時間）
16	定期試験		授業外学修時間 15時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	データを読む・説明する・扱う	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版	978-4805883983
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	テキストを補うために必要に応じて資料を配布する	
履修条件		
履修上の注意	教科書・配布資料等を読み返し、今までに学んだことを復習して授業に望んでください。そうすることで、授業での振り返りやグループワークの理解が深まります。	
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。	
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。	

介護総合演習Ⅰ

更新日：2026/05/19 15:16:02

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG107
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護実習の事前・事後学習を通して、介護実習の目標・目的を理解する。実習マニュアルを学びの軸とし、他科目の進行状況や内容とも関連付けながら、介護福祉士としての生活支援の基礎力、実践力、応用力を身につける。また、実習のルール・提出物の締切を守る、クラスメイトと協力し実習予定を立てる、学外での礼節・約束を守る等の「学生としての基本的行動」を身につける。

授業における到達目標

1	施設との連絡・調整・訪問等において社会ルールや状況に適した言動・行動ができ、クラスメイトと親和的な態度で関りながら協力できる。
2	介護実習の事前・事後学習を通して介護福祉士に求められている専門性を理解し、多職種の中でどのような役割をもっているかを理解できる。利用者の居住環境に応じた生活支援の方法を理解している。
3	利用者を中心とした同じ専門職（介護福祉士）同士のコミュニケーション、多職種のコミュニケーションがどのようなものか理解している。
4	実習マニュアルを軸として、実習目標を設定し、自らの課題に取り組むことができる。
5	介護福祉士としての職業倫理を理解し授業に取り組むことができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	オリエンテーション参加の取組み	10%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験	60%
コミュニケーション能力	3	レポート	10%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 本授業では 定期試験60%、オリエンテーション参加の取組み10%、レポート20%、授業への参加・態度10%で評価する 対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する 課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「介護総合演習での学び」 <ul style="list-style-type: none"> 介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的 2年間のスケジュール 「実習先の調査（訪問・通所希望調査）」 「介護実習で何を学ぶか」 <ul style="list-style-type: none"> 介護実習の意義と目的 介護実習の種類 実習前の学びと、実習後の学びの活かし方 	面接授業	予習：・テキストP2～12までを読み、内容を理解しておく ・テキストP14～34を読む （1時間）
2	2回目	「訪問介護、通所介護の特徴」 <ul style="list-style-type: none"> サービス内容 対象者 1日のスケジュールとケアの内容 多職種 チームケア 実習マニュアル配布	面接授業	予習：テキスト p78～p100を読み、内容を理解する。（1時間）

3	3回目	「事前オリエンテーションの理解」 ・実習先別グループワーク 訪問・通所、事前オリエンテーションアポイント話し合い。 ・個人票、実習目標の書き方	面接授業	復習：テキストP43～p51を読み、内容を理解する 復習：実習マニュアル「事前オリエンテーション」 (1時間)
4	4回目	「実習目標と振り返り」 ・実習目標の理解 ・振り返り（反省会について） ・日誌の書き方 訪問・通所記録用紙配布	面接授業	予習：テキストP40～56を読む。p57～p63を読む。 復習：実習日誌の書き方（1時間）
5	5回目	「実習のための提出書類」 ・実習誓約書配布・体調管理表・行動歴配布 「実習後の学び」 ・お礼状の書き方　・振り返り用紙の書き方	面接授業	予習：テキスト p64～p68。 実習マニュアル「訪問・通所介護」を読む（1時間）
6	6回目	評価の理解 施設評価、教員評価、自己評価 「実習記録用紙の書き方」 日誌・施設の概要・利用者のTimeStudy	面接授業	復習：お礼状の書き方 (1時間)
7	7回目	「実習前指導」 ・実習に持っていく記録物の再確認 ・日誌の書き方の復習 ・施設の概要の書き方の確認 「GHの特徴」 ・サービス内容・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種・チームケア・地域連携 実習先の調査(グループホーム希望調査)	面接授業	復習：実習に持っていく記録物の確認、日誌の書き方を考える。施設の概要を調べる。実習マニュアルを読む。(1時間)
8	8回目	「訪問・通所実習振り返り」 自己評価 「特別養護老人ホームの特徴」 ・サービス内容・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種・チームケア・地域連携 実習先の調査(特養・障害希望調査)	面接授業	予習：自己評価のために自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、次の実習につなげるべき課題について考える（1時間）
9	9回目	「障害者支援施設の特徴」 ・サービス内容・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種・チームケア・地域連携	面接授業	予習：テキストP185～196を読み、内容を理解する (1時間)
10	10回目	「グループホーム実習準備」 ・事前オリエンテーションアポイント話し合い。 ・個人票、実習目標の書き方 GH記録用紙配布	面接授業	予習：テキストP149～p160を読み、内容を理解する (1時間)
11	11回目	「特養・障害　実習準備」 ・事前オリエンテーションアポイント話し合い。 ・個人票、実習目標の書き方	面接授業	復習：テキストP112～P124、p185～p196を読み、内容を理解する (1時間)
12	12回目	「実習記録の書き方」 ・日誌の書き方	面接授業	復習：実習マニュアルを読み日誌の書き方を理解する (1時間)
13	13回目	「実習記録の書き方」 ・タイムスタディ ・プロセスレコード	面接授業	復習：実習マニュアルを読み日誌の書き方を理解する (1時間)
14	14回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 (1時間)
15	15回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 (1時間)
16	16回目	「事後学習」 実習の振り返りと自己評価 振り返り用紙を発表 事例研究発表会スケジュール確認 事例研究発表会での役割確認	面接授業	予習：自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、次の実習につなげるべき課題について考える(1時間)
17	17回目	実習の振り返りと自己評価 振り返り用紙を発表 事例研究発表会スケジュール確認 事例研究発表会での役割確認	面接授業	予習：自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、次の実習につなげるべき課題について考える(1時間)

18	18回目	「実習先の特徴と学ぶポイント」 介護老人保健施設（老健） 介護老人保健施設について 実習先の調査（老健希望調査）	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：p101～p111、p125～p135（1時間）
19	19回目	リハビリテーション病院 リハビリ実習について（宿泊等） 実習先の調査（リハビリ希望調査）	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：配布資料 （1時間）
20	20回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講 会場準備	面接授業	予習・復習：2年生の本論から長期実習での学びを理解する（1時間）
21	21回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講	面接授業	予習・復習：2年生の本論から長期実習での学びを理解する（1時間）
22	22回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講 ケースレポート聴講の感想を提出する 会場撤去	面接授業	予習・復習：2年生の本論から長期実習での学びを理解する（1時間）
23	23回目	介護老人福祉施設（特養） 実習先の調査（特養希望調査）	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：p112～p124 （1時間）
24	24回目	実習先別グループワーク 老健オリエン話し合い役割分担、目標決め、資料作成 実習先の調査	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：p101～p111、p125～p135（1時間）
25	25回目	実習先別グループワーク リハビリオリエン話し合い	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：配布資料（1時間）
26	26回目	実習先別グループワーク 特養オリエン話し合い	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 （1時間）
27	27回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：p112～p124 （1時間）
28	28回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習：実習マニュアル 予習：テキスト、対象頁 （1時間）
29	29回目	特養振り返り用紙配布、記入 老健・リハビリ・特養 自己評価	面接授業	復習：マニュアル実習内容の確認 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認 （1時間）
30	30回目	老健・リハビリ・特養 振り返り用紙をもとに発表・ グループワーク	面接授業	復習：実習マニュアルの確認（1時間） 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認
31		定期試験		授業外学修時間 30時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	長崎短期大学 介護福祉士実習マニュアル	
履修条件		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・介護総合演習は、介護実習の準備をする大切な授業です。可能な限り欠席・遅刻等せず授業に出席してください。そうすることで介護実習がより充実したものになる可能性が高まります。 ・授業には実習マニュアル類を持参してください。 ・実習への取組みには、学生同士の協力が不可欠です。授業を通して、学生同士のコミュニケーション能力を身につけてください。 	
オフィスアワー	授業・実習前後にて対応します。	
備考・メッセージ	授業の到達目標を理解してください。	

介護総合演習Ⅱ

更新日：2026/05/19 15:16:04

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG305
担当教員	太田 茂美				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	演習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

実習体験を通しての振り返りを、次の実習・実践につなげられるように、目的・目標を常に明確化する。また、他科目の進行状況や内容に、介護実習を関連付けることができるようになる。長期実習後、事例研究にて実践の結果を発表し、介護実践に必要な知識や技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。

授業における到達目標

1	介護実習の事前・事後の学びにおいて、自ら分析的に考え、行動し、他者の協力を得ながら実習に取り組むことができる。
2	生活支援技術の専門知識と技術を効果的に活用し、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ、その人の立場に立ち、3領域の知識を活かした介護を効果的に展開し、その根拠を示しながら発表することができる。自らの介護観について述べるができる。
3	実習記録類の記述方法を理解し、教員の指導をもとに問題点を改善し、介護実習・事例研究作成に、効果的に活用することができる。
4	介護実習の振り返りをおこない、実習に関わる自らの課題を自覚し、解決方法を考えることができる。
5	実習の目標や課題を自分で考えることができる。専門職として自己に求められる課題を把握できる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標 (番号のみ記載)	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	事例研究発表会	5%
確かな専門的知識や技能	2	①事例研究発表会 ②定期試験	①10% ②60%
コミュニケーション能力	3	事例研究発表会	5%
課題解決能力	4	レポート	10%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では 定期試験60%、事例研究発表20%、レポート10%、授業への参加・態度10%で評価する
 ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際はGoogle Classroom等を使用する
 ・課題等のフィードバックは授業またはGoogle Classroom等で行う

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「介護実習Ⅱの意義と目的」 介護実習Ⅰの振り返り 振り返り記入 発表 介護実習Ⅱについて 実習先の調査（長期実習希望調査）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日記類を読んでおくこと 予習：介護老人保健施設・介護老人福祉施設の振り返りレポート、長期実習先の検討をしておくこと（2時間）
2	2回目	「長期実習事前学習」 実習Mの確認 実習先の調査（長期実習希望調査）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日記類を読んでおくこと 予習：長期実習先の実習Mを読んでおくこと（1時間）
3	3回目	長期実習について オリエン話し合い 個人票目標・実習目標の検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日記類を読んでおくこと 予習：長期実習マニュアルを読んでおくこと（1時間）

4	4回目	長期実習について 個人票目標・実習目標の設定 「長期実習」記録用紙配布	面接授業（オンライン対応可能）	復習：長期実習マニュアル 予習：実習マニュアルの再確認、前年度の事例研究論集を読んでおくこと （1時間）
5	5回目	長期実習について 事例研究の書き方について 参考：過去事例研究論集 図書館利用について	面接授業	復習：前年度の事例研究抄録を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）
6	6回目	長期実習について 実習前指導 長期実習前、日誌類・その他、再確認と注意事項等	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）
7	7回目	長期実習について 実習前指導 長期実習前、日誌類・その他、再確認と注意事項等	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）
8	8回目	アセスメント（1）（2）の作成と、個別援助計画の作成について	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）
9	9回目	アセスメント（1）（2）の作成と、個別援助計画の作成について	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）
10	10回目	「事後学習」 介護実習Ⅱ（長期実習）振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 自己評価	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の記録類を読んでおくこと（2時間）
11	11回目	介護実習Ⅱ（長期実習）振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 発表	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の振り返りのまとめをしておくこと （1時間）
12	12回目	介護実習Ⅱ（長期実習）振り返り 介護過程展開の振り返り グループワーク	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の振り返りのまとめをしておくこと （1時間）
13	13回目	「事例研究作成」 事例研究の書き方の再確認 参考：過去事例報告集 事例研究の提出手順、印刷、評価方法、発表会運営、事例研究の発表方法等	面接授業	復習：自身の記録類を読んでおくこと 予習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと （1時間）
14	14回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成（1時間）
15	15回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成（1時間）
16	16回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （1時間）
17	17回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （1時間）
18	18回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （1時間）
19	19回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める PPT作成	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成（2時間）
20	20回目	「事例研究発表会事前指導」 カルチャーホールにて発表練習	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （2時間）
21	21回目	「事例研究発表会事前指導」 カルチャーホールにて発表練習	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （2時間）
22	22回目	「事例研究発表会事前指導」 カルチャーホールにて発表練習	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：発表原稿の印刷をしておくこと （1時間）
23	23回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 （1時間）
24	24回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 （1時間）

25	25回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 （1時間）
26	26回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 （1時間）
27	27回目	「事例研究発表会振り返り」 振り返りシート発表・グループワーク	面接授業（オンライン対応可能）	復習：事例報告集 予習：事例報告集 （1時間）
28	28回目	「介護総合演習まとめ」 倫理・尊厳とは何か	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献等 （1時間）
29	29回目	実習を通して「介護福祉士観」「職業観」について考える	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献 （1時間）
30	30回目	「介護観」とは 介護福祉士観の発表	面接授業（オンライン対応可能）	予習：「介護観」について考えておくこと （1時間）
31	31回目	定期評価		授業外学修時間 35時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	データを読む・説明する・扱う	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版/上原千寿子他/2022年/中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル	
履修条件		
履修上の注意	授業には実習マニュアル類を持参してください。 評価について：定期試験、実習前後の実習態度や提出物の内容、実習先の担当職員の評価、事例研究発表、実習報告書、事例検討書の内容等により総合的に評価する。	
オフィスアワー	授業終了後、放課後など。随時質問に来てください。	
備考・メッセージ	講義概要、到達目標、評価方法、を確認の上、授業に臨んでください。 特に長期実習前は、実習マニュアルを熟読してください。 事例研究作成には参考文献が不可欠です。図書館の本等、沢山の文献を読み、参考にしてください。	

介護実習Ⅰ

更新日：2026/05/19 15:16:06

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG108
担当教員	太田 茂美, 島村 真理子, 白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	5	選択	実習	
アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）			<input checked="" type="checkbox"/>	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）			<input checked="" type="checkbox"/>	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）			<input checked="" type="checkbox"/>	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）				
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）				
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）				
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））				

授業概要

介護現場での実習を通して、利用者ひとりひとりの生活リズムや個性を理解するという視点から、介護とは何かを学ぶ。利用者、家族との関わりを通じたコミュニケーション、他職種連携、これまで学んだ生活支援技術を実践する基礎的能力を習得する。

また、利用者の暮らしや住まいといった環境面を理解しながら、その人らしい生活を維持するための個別ケアの重要性について理解する。

- ①介護実習の意義目的を理解する
- ②人権尊重や自立支援を基本に生活ニーズに関する情報を収集し、生活支援に活かすことができる
- ③実習を通して、実習施設の基本理念、目標を基に利用者の生活・心身の状況に応じた生活支援技術を学ぶ
- ④介護に関する過程、他職種連携、地域連携を学び、介護の探究する姿勢を身につける
- ⑤介護職の職業倫理や姿勢・態度を学び、実践力を身につける

授業における到達目標

1	学校・実習先のルールを守り、状況に適した言動ができる。
2	生活支援技術の専門知識と技能を概ね習得し、実践をすることができる。3領域の知識を概ね習得し、その知識を活かした介護を実践することができる。
3	丁寧な字で実習日誌類（実習目標）を書き、教員の指導を受けながらその内容（文字の丁寧さ、目標の内容）を改善することができる。
4	ニーズ・生活課題について情報を収集することができる。指導を受けたことを実践し、その結果を報告することができる。
5	介護を実践する上での課題に取り組むことができる

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	実習前・中・後	10%
確かな専門的知識や技能	2,3,4	実習中	70%
コミュニケーション能力	3	実習記録類（日誌等）	5%
課題解決能力	4	実習中・後	5%
主体的に学ぶ力	5	実習前後	10%
合計			
補足事項			
実習巡回時に課題などを聞き取る。実習最終日等に反省会を開催することで課題や問題を明らかにし、実践的な学びを深める。学生が施設実習中は、Google Classroom等で質問等に対応する。			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1		【訪問・通所介護実習】 3日間（24時間） 《実習目的》訪問・通所介護の特性や役割を知り、利用者の特性に応じた生活環境に対する生活支援技術の方法を理解する	実習	復習：1日ごとに実習日誌を記録し、反省や翌日の実習の課題を見つける (1日2時間、計6時間)
2		【グループホーム】 5日間（40時間）《実習目的》認知症対応型共同生活介護の特徴や役割を知り、利用者の自立支援のための日常生活援助の方法を理解する	実習	復習：1日ごとに実習日誌を記録し、反省や翌日の実習の課題を見つける (1日2時間、計10時間)

3	【障害者支援施設実習・介護老人福祉施設】 5日間(40時間) 《実習目的》施設の特徴と役割を知る。利用者の心身状況に応じた専門職としての視点、及びチームとしての連携方法を踏まえて、生活支援技術を的確に選択し実践できる。ICFに基づいたアセスメントができる。	実習	復習：1日ごとに実習日誌を記録し、反省や翌日の実習の課題を見つける (1日2時間、計10時間)
4	【介護老人保健施設・介護老人福祉施設】 9日間(72時間) 《実習目的》施設の特徴と役割を知る。利用者の心身状況に応じた専門職としての視点、及びチームとしての連携方法を踏まえて、生活支援技術を的確に選択し実践できる。ICFに基づいたアセスメントができる。	実習	復習：復習：実習日誌やアセスメントシートなどを記録し、翌日の実習の課題を見つける (1日3時間、計27時間)
5	【リハビリテーション病院・介護医療院】 4日間(32時間) 《実習目的》リハビリテーション病院・介護医療院の特徴や役割を知り、他職種と連携を図りながら患者様の自立支援に向けたICFの視点での日常生活援助方法を理解する。	実習	復習：1日ごとに実習日誌を記録し、反省や翌日の実習の課題を見つける (1日2時間、計8時間)

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	①最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ②「社会」「こころとからだ」「介護」の各領域テキスト、各授業にて配布されたプリント類	①9784805883990
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	長崎短期大学介護福祉実習マニュアル	
履修条件		
履修上の注意	介護実習期間中は、欠席、遅刻が無いように、とりくんでください。 介護実習の評価は、実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認します。介護実習Ⅰにおいては、実習期間中はテキストを自宅に持ち帰り、学校で学修したことを実習に活かしてください。	
オフィスアワー	実習の前後で対応します。また、実習期間中は巡回担当教員が、施設巡回に行きます。その際に、不明点等を質問してください。	
備考・メッセージ	実習前後の取り組みを大切にしてください。特に、報告・連絡・相談、を大切にしてください。 実習には様々な、不安や悩み等があると思います。そのような場合は、巡回担当教員に相談することで、実習に組みやすくなるはずです。一人で悩まず、なんでも質問してください。学生が実習に組みやすいように、巡回教員が調整を行います。	

介護実習Ⅱ

更新日：2026/05/19 15:16:06

開講年度	2026	開講期	通年	ナンバリング	CG306
担当教員	太田 茂美, 島村 真理子, 白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年～2年	5	選択	実習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

介護実習Ⅰで得た知識・技術をもとに利用者の状況に応じた生活支援技術について実践を行う。介護現場での実習を通して、利用者の生活全体を把握した上で利用者一人を担当し、アセスメントからモニタリングまで介護過程の実践を通して、個別介護の重要性を理解する。

- ①観察、コミュニケーション、記録類を通じて得た情報から優先度を考え、生活課題を明確にできる
- ②利用者、家族、他職種とのチームアプローチの必要性を理解し、介護計画の立案を行うことができる
- ③介護過程を展開する中で、専門的・計画的な介護サービスを提供する能力を身につける
- ④利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる
- ⑤介護目標が達成できたか、援助内容が適切であったか、計画を修正する必要があったか評価する力を身につける

授業における到達目標

1	個別援助計画の短期目標達成にむけ、成功イメージを意識しながら、計画の立案・実施・修正を柔軟に行うことができる。
2	生活支援技術の専門知識と技能を、効果的に活用することができる。また、3領域の知識を活かした介護を効果的に実践しその根拠を示すことができる。その人の思いを推測し、引き出しながら、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ把握し、その改善方法の立案と実践をすることができる。
3	利用者の立場に立ち、その思いを共感することができる。自らの感情表出傾向を自覚できる。多職種の協力を得ながら、利用者本位の支援を考え、実践することが出来る。
4	自ら考えたこと、実践したことを報告し、疑問を相談することで、自身の課題を解決することができる。
5	個別援助計画の実践について評価することができ、新たな課題に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	実習前・中	5%
確かな専門的知識や技能	1 2 3 4 5	実習中	80%
コミュニケーション能力	3	実習中・後	5%
課題解決能力	4	実習中・後	5%
主体的に学ぶ力	5	実習中・後	5%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 施設からの評価80%、実習前・中・後の取組み20%で評価します。実習目標設定、実習中における教員からの指導、実習後の振り返りやお礼状投函等、幅広い項目が実習評価となります。一つひとつの項目を、指導を受けながら丁寧に取組むようにしてください。また、長期実習においては、これまで学修してきた知識を活用しながらアセスメント作成し、個別援助計画の実践をすることが実習の柱となります。 ・実習訪問時に課題などを聞き取り、GoogleClassroomでフィードバックします。 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1		入所施設 (介護老人福祉施設・介護老人保健施設等・障害者支援施設)	8日間(64時間) 《実習目的》 利用者の生活ニーズを捉え、生活支援のあり方を考え実践する。	復習・予習：実習日誌やアセスメントシートなどを記録し、翌日の実習の課題を見つける (1日3時間、計24時間)

2	長期実習 (介護老人福祉施設・介護老人保健施設等・障害者支援施設)	23日間(184時間) 《実習目的》 利用者を総合的に捉え、 個別性を踏まえた介護過程を 展開することができる。	復習：実習日誌やアセスメントシートなどを記録し、 翌日の実習の課題を見つける 予習：個別援助計画達成にむけての計画を立てる (1日3時間、計69時間)
---	--------------------------------------	--	--

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	①最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ②「社会」「こころとからだ」「介護」の各領域テキスト、各授業にて配布されたプリント類	①9784805883990
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	長崎短期大学 介護福祉士実習マニュアル	
履修条件		
履修上の注意	介護実習期間中は、欠席、遅刻が無いように、とりくんでください。 介護実習の評価は、実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認します。介護実習Ⅱにおいては、実習期間中はテキストを自宅に持ち帰り、個別援助計画の作成に活かしてください。計画を書く上で重要な「根拠」は、テキストを参考に記述するとより学びが深まります。	
オフィスアワー	実習の前後で対応します。また、実習期間中は巡回担当教員が、施設巡回に行きます。その際に、不明点等を質問してください。その際に、アセスメント(1)(2)、個別援助計画について、巡回担当教員に質問してください。	
備考・メッセージ	実習前後の取り組みを大切にしてください。特に、報告・連絡・相談、を大切にしてください。長期実習は23日間、約5週に渡る長丁場です。各自、実習前から、心身共に体調管理に努めることが重要なポイントとなります。 長期実習には様々な、不安や悩み等があると思います。そのような場合は、巡回担当教員に相談することで、実習に取り組みやすくなるはずです。一人で悩まず、なんでも質問してください。	

こころとからだA

更新日：2026/05/19 15:16:14

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	MB101
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの種類	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を習得する。

- ①健康とは何かを理解する。
- ②からだと密接なつながりをもつこころのしくみを理解する

授業における到達目標

1	ストレスやプレッシャーに対処する方法を理解することができる。
2	健康とは何かを述べることができる。
3	こころとからだのしくみについて基礎的な知識を理解することができる。
4	グループ内で協力し、介護の援助場面でのコミュニケーションのとり方について理解を深めることができる。
5	援助する場合の留意点を踏まえ、課題解決の方法について考えを述べるができる。
6	課題解決に積極的に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3	定期試験 小テスト	70% 10%
コミュニケーション能力	4	グループディスカッション	5%
課題解決能力	5	課題・レポート	5%
主体的に学ぶ力	6	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、レポート5%、定期試験70%、小テスト10%、グループディスカッション5%、課題・レポート5%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。
- ・15回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業の進め方について説明 「健康とは何か」 健康の定義について理解する	面接授業	予習：P2～4（1.5時間）
2	2回目	「健康とは何か」 健康づくり、健康観について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P4～8（1.5時間）
3	3回目	「健康とは何か」 人はなぜ病気になるのかについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P8～11（1.5時間）
4	4回目	「こころのしくみを理解する」 「人間の欲求とな何か」 マズローの基本的欲求について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P14～15（1.5時間）
5	5回目	「人間の欲求とな何か」 マズローの社会的欲求、自己実現について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P16～18（1.5時間）

6	6回目	「自己実現と尊厳」 自己概念に影響する要因について理解する 自立への意欲と自己概念について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P19～21（1.5時間）
7	7回目	「自己実現と尊厳」 自己実現と尊厳、生きがいについてグループで話し合う 国際的な取組みについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2.5時間） 予習：P21～23（1.5時間）
8	8回目	「こころのしくみの基礎」 こころとは何かについて理解する 脳をつくる細胞について理解する	面接授業	復習：1回目～8回目の授業を振り返る（3時間） 予習：P24～26（0.5時間）
9	9回目	「こころのしくみの基礎」 脳のしくみについて理解する	面接授業	復習：大脳皮質の区分と機能局在、大脳辺縁系の位置を図示する（3時間） 予習：P26～27（0.5時間）
10	10回目	「こころのしくみの基礎」 脳のしくみと認知のしくみの関連を理解する	面接授業	復習：認知のしくみを整理する（3時間） 予習：P28（0.5時間）
11	11回目	「こころのしくみの基礎」 学習・記憶・思考のしくみについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P28～32（2時間）
12	12回目	「こころのしくみの基礎」 感情・情動のしくみについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P32～33（2時間）
13	13回目	「こころのしくみの基礎」 意欲・動機づけのしくみについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P33～34（2時間）
14	14回目	「こころのしくみの基礎」 適応のしくみについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P35～37（2時間）
15	15回目	「こころのしくみの基礎」 適応のしくみについて理解する 本教科のまとめ	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：1回目～14回目の授業を振り返る（2時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修 52時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は専門性が高く、継続的な学習が必要なため、予習・復習を行い理解の定着に努めてください。 ・授業中は学習に適した態度を保持し、私語や不適切な行為は慎んでください。 	
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。	
備考・メッセージ		

こころとからだB

更新日：2026/05/19 15:16:15

開講年度	2026	開講期	2Q/6Q	ナンバリング	MB102
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど）	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
本授業では、①からだのしくみを理解する。②生命を維持する仕組みを理解する。

授業における到達目標

1	からだのしくみについて基礎的な知識を理解する。自律神経、内分泌、免疫と恒常性のしくみを理解する。介護福祉職に必要な薬の知識について理解する。
2	グループ内で協力し、からだのしくみについて理解を深めることができる。
3	介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を整理し、述べることができる。
4	学習課題に積極的に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	・定期試験 ・小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	2	・グループディスカッション	10%
課題解決能力	3	・ノート	10%
主体的に学ぶ力	4	・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、ノート10%、グループディスカッション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。 ・本授業においては、開始15分までの入室は遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」授業概要と担当について説明する。 「からだのしくみ」「からだの部位の役割」 身体各部の名称について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P42～46を読み、まとめる。(1.5時間) 復習：身体各部の名称は暗記する。(2.5時間)
2	2回目	「からだの部位の役割」 細胞・遺伝、脳・神経系の構造について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P46～51を読み、まとめる。(1.5時間) 復習：中枢神経の構造と働きについて、整理し、理解を深める。(2.5時間)
3	3回目	「からだの部位の名称」 脳・神経系のはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P52～53を読む。(1.5時間) 復習：末梢神経の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5時間)
4	4回目	「からだの部位の役割」 感覚器の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P53～56を読み、まとめる。(1.5時間) 復習：感覚器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5時間)

5	5回目	「からだの部位の役割」 呼吸器の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P56～58を読み、まとめる。(1.5時間) 復習：呼吸器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5時間)
6	6回目	「からだの部位の役割」 循環器の構造を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P58～60を読み、まとめる(1.5時間) 復習：循環器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5時間)
7	7回目	「からだの部位の役割」 循環器のはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P58～60を読み、まとめる(1.5時間) 復習：循環器(主にリンパ系)の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5時間)
8	8回目	「からだの部位の役割」 消化器の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P60～65を読む(1時間) 復習：消化器の構造とはたらきをノートに図示し整理する(3時間)
9	9回目	「からだの部位の役割」 泌尿器の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P63～64を読む(1時間) 復習：泌尿器の構造とはたらきノートに図示し整理する(3時間)
10	10回目	「からだの部位の役割」 骨・関節の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P65～68を読む(1時間) 復習：骨・関節の構造とはたらきノートに図示し整理する(3時間)。
11	11回目	「からだの部位の役割」 筋肉の構造とはたらきを理解する。 神経系のはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P69～72を読む(1時間) 復習：筋肉の構造と神経系のはたらきノートに図示し整理する(3時間)
12	12回目	「からだの部位の役割」 生殖器・内分泌の構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P72～78を読む(1時間) 復習：生殖器・内分泌の構造とはたらきノートに図示し整理する(3時間)
13	13回目	「からだの部位の役割」 血液・体液・リンパの構造とはたらきを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P78～80を読む(1時間) 復習：血液・体液・リンパの構造とはたらきノートに図示し整理する(3時間)
14	14回目	「関連する役割、および薬の知識」 自律神経、内分泌、免疫と恒常性のしくみを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P80～82を読む(1時間) 復習：自律神経、内分泌、免疫と恒常性のしくみノートに整理する(3時間)
15	15回目	「関連する役割、および薬の知識」 介護福祉職に必要な薬の知識について説明する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある。	予習：P82～86を読む(1時間) 復習：介護福祉職に必要な薬の知識ノートに整理する(3時間)
16		定期試験		授業外学修時間60時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	教科書：最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。	978-4-8058-8400-3
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	各臓器の構造とはたらきについて新しく知りえたことを、授業終了時には毎回グループで知識の共有を図るので、発表できるように準備すること。 授業では、図示をするので毎回、色分けできるように色鉛筆、マーカー等を持参する。	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。	
備考・メッセージ	本授業では、身体各部のしくみを基礎から学びます。 名称や構造を覚えるだけでなく、「どのように働いているのか」「生活や介護とどのように関係するのか」を意識して理解を深めていきます。 疑問に思ったことはそのままにせず、積極的に質問してください。	

こころとからだC

更新日：2026/05/19 15:16:16

開講年度	2026	開講期	3Q/7Q	ナンバリング	MB201
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

生活支援を行う際に必要とされる基礎的な知識として、生活支援の場面（移動・身じたく・食事・入浴・清潔）に応じた、こころとからだのしくみを理解する。

機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。

授業における到達目標

1	現代社会におけるコミュニケーションの課題と解決策を考えることができる。
2	こころとからだの相互関係を理解し、意欲や行動にどのような影響を及ぼすかについて理解できる。
3	具体的な生活行動への影響及び支援の根拠となる知識と観察のポイントや対応内容を理解できる。
4	グループ内で協力し、こころとからだのしくみについて理解を深めることができる。
5	生活行動への影響を理解し、根拠に基づく介助の方法について考えを述べるができる。
6	学習課題に積極的に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3	定期試験 小テスト	70% 5%
コミュニケーション能力	4	グループディスカッション	10%
課題解決能力	5	レポート	5%
主体的に学ぶ力	6	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、レポート5%、定期試験70%、小テスト5%、グループディスカッション10%、課題・レポート5%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。
- ・15回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業概要について理解する 「移動に関連したこころとからだのしくみ」 移動のしくみを理解する（基本姿勢・ボディメカニクス）	面接授業	予習：P90～91（1時間）
2	2回目	「移動に関連したこころとからだのしくみ」 実際にからだを動かし、移動に関連したこころとからだのしくみを理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P91～104（2時間）
3	3回目	「移動に関連したこころとからだのしくみ」 心身の機能低下が移動に及ぼす影響について理解する 要因と不自由になることで生じる状態を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P106～111（2時間）
4	4回目	「移動に関連したこころとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P112～115（2時間）

5	5回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 身じたくに関連したところとからだのしくみを理解する 生活の中で行われている身じたくに関するところとからだの基本項目（顔面・眼・耳・鼻・爪）を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P66～70、P118～127（2時間）
6	6回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 生活の中で行われている身じたくに関するところとからだの基本項目（毛髪・口腔・歯・舌・口臭・洗顔）を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P128～135（2時間）
7	7回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響について理解する（老化・妨げとなる要因）	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P137～142（2時間）
8	8回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する 支援のための観察ポイントと多職種連携のための判断を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P143～151（2時間）
9	9回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 食事のしくみについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P154～160（2時間）
10	10回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が食事に及ぼす影響について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P162～168（2時間）
11	11回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P169～175（2時間）
12	12回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 入浴・清潔保持のしくみ（入浴の効果・清潔保持の必要性・心身機能の影響）について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P178～188（2時間）
13	13回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P190～199（2時間）
14	14回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P206～210（2時間）
15	15回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する 本教科のまとめ	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P206～210（2時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修 57時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は専門性が高く、継続的な学習が必要なため、予習・復習を行い理解の定着に努めてください。 ・授業中は学習に適した態度を保持し、私語や不適切な行為は慎んでください。 	
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。	
備考・メッセージ		

こころとからだD

更新日：2026/05/19 15:16:17

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	MB401
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必修区分	授業形態	
	2年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面（排泄・睡眠）に応じた、こころとからだのしくみを理解する。機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響と具体的ケアの方法を理解する。

授業における到達目標

1	排泄、休息・睡眠に関する基礎的な知識、人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて理解する。介護福祉職としてのケアの方法について理解する。
2	グループ内で協力し、排泄、休息・睡眠について、さらに人生の最終段階のケアについて理解を深めることができる。
3	排泄障害、睡眠障害を理解し、ケアの方法について考えを述べるができる。人生の最終段階を迎えた人へのケアについて考えを述べるができる。
4	学習課題に積極的に取り組むことができる。尊厳を支える介護とはどのような介護か、考えることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	・定期試験 ・小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	2	・グループディスカッション	5%
課題解決能力	3	・レポート ・グループによるプレゼンテーション	5% 5%
主体的に学ぶ力	4	・授業への参加・態度 ・レポート	10% 5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート10%、プレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
- ・授業の途中に小テストを何回か実施します。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。
- ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。
- ・本授業においては、開始15分までの入室は遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「排泄に関連したこころとからだのしくみ」排泄のしくみを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P214～216を読む(1時間) 復習：P219演習7-1をする。(2時間)
2	2回目	「排泄に関連したこころとからだのしくみ」 人工膀胱・人工肛門のしくみを理解する。 身体の機能低下が排泄に及ぼす影響（精神、判断能力低下）を理解する。	面接授業	予習：P216～224を読む(1時間) 復習：P220演習7-2をディスカッションした内容を整理する。(3時間)
3	3回目	「排泄に関連したこころとからだのしくみ」 身体の機能低下が排泄に及ぼす影響（身体機能の低下）を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P224～230を読む(1時間) 復習：P231演習7-3、7-4をする(3時間)

4	4回目	「排泄に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P232～238を読む(1時間) 復習：自己の排泄日誌を1週間つける(3時間)
5	5回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 なぜ人は睡眠をとるのかを理解する。 睡眠のしくみを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P240～244を読む(1時間) 復習：P248演習8-1をする(2時間)
6	6回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 睡眠の質を高める環境や生活習慣を理解する。 睡眠障害を理解する。 p249演習8-2を、ディスカッションし快適に 眠る工夫について意見交換する。	面接授業	予習：P245～247を読む(1時間) 復習：P249演習8-2を、ディスカッションした内容を 整理する(3時間)。
7	7回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響について学 ぶ。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P250～256を読む(1時間) 復習：P257演習8-3をする(2時間)
8	8回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 睡眠の観察のポイントと変化の対応について理解す る。 睡眠での医療職との連携のポイントや緊急対応が必要 な状況を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P258～261を読む(1時間) 復習：自己の睡眠日誌を1週間つける(2時間)。 アセスメントのポイントと睡眠薬についてまとめる (4時間)。
9	9回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 「人生の最終段階に関する「死」のとりえ方 尊厳死 (リビングウィル、インフォームドコンセント)や加 齢に伴う自然死について理解する。 看取りにかかわる人の価値観を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P264～269を読む(1時間) 復習：死のとりえ方3つ、尊厳 死、自然死を説明する(4時間)
10	10回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 終末期とは何かを、終末期に退院する例からターミナル ケアのポイントを理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P269～274を読む(1時間) 復習：ターミナルケアのポイント(本人・家族)をま とめる(4時間)
11	11回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 死に対する考え方、キューブラー・ロスの終末期にあ る人の死の受容プロセス及び家族への支援を理解す る。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P275～280を読む(1.5時間) 復習：P281演習9-1をする(1.5時間)
12	12回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 終末期から臨終期における身体機能の変化を理解す る。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P282～287を読む(1時間) 復習：臨終期の対応の準備をまとめる(3時間)
13	13回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 死後のからだの変化や死後の連絡について学ぶ	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：P287～290を読む(1時間) 復習：P290演習9-2をする(3時間)
14	14回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしく み」 終末期における医療職との望ましい連携についてグル ープディスカッションしプレゼンテーションを行う。	面接授業	予習：P291～299を読む(1時間) 復習：介護福祉士の終末期ケアの役割をまとめる(3 時間)
15	15回目	「人生の最終段階に関連したところとからだ のしくみ」 死後のケアの方法を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	予習：配布プリントを読む(1時間)。 復習：死後のケアを行う時に心がけることをまとめる (5時間)。
16		定期試験	面接授業 オンライン等で行う場合 がある	

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行 規則に定める科目区 分または事項等		
数理・データサイエ ンス・AI教育プログ ラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	教科書：最新介護福祉士養成講座11「ところとからだのしくみ」中央法規出版会 を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。	978-4-8058-8400-3
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		

履修上の注意	厚生労働省：死亡数の経年数値を見て、臨床的な死や臓器提供について考える。 グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	本授業では、排泄・睡眠・人生の最終段階におけることからのしくみについて学びます。 身体的な変化の理解に加え、「なぜそのような状態になるのか」「どのような関わりが望ましいのか」を考える力を養います。 利用者の尊厳や思いに配慮した支援について、一緒に考えていきましょう。

発達と老化の理解 I

更新日：2026/05/19 15:16:07

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	MB103
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

人間の成長・発達の過程における身体的・心理的・社会的変化、老化が生活に及ぼす影響についての基礎的知識を理解する。また、ライフサイクルの特徴に応じた生活支援に必要な基礎的知識を理解する。

授業における到達目標

1	試行錯誤しながら、自ら考え行動する。
2	人間の成長・発達の基礎的な考え方をふまえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題を理解できる。老化にともなう身体的・心理的・社会的な変化が理解できる
3	グループ内で協力し、ライフサイクルの特徴について理解を深めることができる。
4	人間の成長発達の過程においておこる様々な課題について理解し、生活支援について考えることができる。
5	学習課題に積極的に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識や技能	2	定期試験 小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	3	グループディスカッション	10%
課題解決能力	4	レポート グループによるプレゼンテーション	5% 5%
主体的に学ぶ力	5	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
- ・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。
- ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。
- ・本授業においては、開始後15分までの入室であれば遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」授業概要と担当について説明する。 「人間の成長と発達の基礎的知識」 発達の概念を理解する。生涯発達の段階について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P2～6を読む(0.5時間) 復習：P17演習1-1, 1-2をする(2時間)。
2	2回目	「人間の成長と発達の基礎的知識」 成長・発達の考え方、成長・発達の原則・法則、成長発達に影響する要因を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P7～16を読む(1時間) 復習：成長・発達の原則・法則、成長発達に影響する要因をまとめる(3時間)。
3	3回目	「人間の発達段階と発達課題」 発達理論、発達段階と発達課題について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P20～34を読む(1時間) 復習：P67演習2-1をする(2時間)。

4	4回目	「人間の発達段階と発達課題」 身体的機能の成長と発達について理解する。心理的機能の発達について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P35～54を読む(1.5時間) 復習：P67演習2-2をする(2時間)。
5	5回目	「人間の発達段階と発達課題」 社会的機能の発達について理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P55～65を読む(1時間) 復習：P68演習2-3をする(3時間)。
6	6回目	「老年期の特徴と発達課題」 老年期の定義、老年期の発達段階を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P70～97を読む(1時間) 復習：P107演習3-1, 3-2をする(3時間)。
7	7回目	「老年期の特徴と発達段階」 老年期をめぐる今日的課題を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P98～106を読む(1時間) 復習：高齢者が経験した出来事をインタビューする。(8時間)
8	8回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する(生理的機能低下、骨格、脳・神経、感覚器の変化と生活への影響)。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P110～126を読む(1時間) 復習：高齢者に老化を感じる場面と発生時期、生活面での変化、現在の社会的活動をインタビューする(8時間)
9	9回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する(血液・循環器系、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器、内分泌・代謝、免疫)	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P126～139を読む(1時間) 復習：インタビュー内容の身体的特徴を整理する。(1.5時間)
10	10回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する。インタビューした高齢者の身体的特徴をグループによるプレゼンテーションで発表する。	面接授業	予習：P110～139を読む(1時間) 復習：P141, 142演習4-1をする(3時間)
11	11回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響を理解する(認知機能、知的機能)。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P143～153を読む(1時間) 復習：インタビュー内容の心理的内容をまとめる(1.5時間)。
12	12回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響について理解する(パーソナリティ、動機づけ・適応)。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P153～160を読む(0.5時間) 復習：P163演習4-2をする。適応機制の中で一つ自己の実体験をまとめる(4時間)。
13	13回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響を理解する。適応機制について、実体験を発表することで理解を深める。	面接授業	予習：P160～161を読む(1時間) 復習：P163演習4-3をする(2時間)
14	14回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう社会的な変化と生活への影響を理解する(生活上の課題、社会活動の現状と課題)。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P164～177を読む(1時間) 復習：P164～177を読む(1.5時間)
15	15回目	「老化にともなうところからだの変化と生活」 老化にともなう社会的な変化と生活への影響を理解する(老化理論)。	面接授業	予習：P177～183を読む(0.5時間) 復習：P185演習4-4をする(1.5時間)。
16		定期試験		授業外学修時間 60時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数値・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	データを読む・説明する・扱う	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	教科書：最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版 中央法規出版を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。ところからだのしくみのテキストを使用することもある。	9.78806E+11
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	プレゼンテーションではPPの使用可	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。	
備考・メッセージ		

発達と老化の理解 II

更新日：2026/05/19 15:16:08

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	MB202
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

高齢者に多く見られる疾病並びに老化によっておこる生活への影響について理解し、生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。

授業における到達目標

1	高齢者に多く見られる疾病と生活への影響や、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための知識を理解できる。
2	グループ内で協力し、高齢者に多くみられる疾病や生活への影響について理解を深めることができる。
3	保健医療職との連携の在り方について、グループディスカッションした内容を発表できる。
4	学習課題に積極的に取り組むことができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	・定期試験 ・小テスト ・レポート	60% 5% 15%
コミュニケーション能力	2	・グループディスカッション	5%
課題解決能力	3	・グループによるプレゼンテーション	10%
主体的に学ぶ力	4	・授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト5%、グループディスカッション5%、レポート15%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 ・適宜提出を求めたレポートは（復習内容）、研究室前のBOXに期日までに提出すること、一週間以内に教室で返却する。 ・本授業においては、開始15分までの入室であれば遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「高齢者と健康」 健康長寿にむけての健康を理解する。 p195演習5-1についてグループディスカッションを行う。	面接授業	予習：P188～194を読む(1時間) 復習：P195演習5-1を整理する(2時間)。
2	2回目	「高齢者の症状・疾患の特徴」 高齢者の症状や疾患の特徴や、特有な症候を理解する。p201演習5-2についてグループディスカッションを行う。	面接授業	予習：P196～200を読む(1時間) 復習：P201演習5-2を整理する(2時間)。
3	3回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（骨格系・筋系）。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P202～211を読む(1時間) 復習：骨粗鬆症、骨折、変形性膝関節症の概要・原因・症状・治療をまとめる(4時間)。

4	4回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（骨格系・筋系、脳・神経系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P211～219を読む(1時間) 復習：P292演習5-3①～⑥を行う。関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、パーキンソン病の概要・原因・症状・治療をまとめる(4時間)。
5	5回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（脳・神経系、皮膚・感覚器系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P220～227を読む(1時間) 復習：P292演習5-3⑦～⑫を行う。脳血管疾患、目の疾患、耳の疾患、皮膚疾患の概要・原因・症状・治療をまとめる(4時間)。
6	6回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（循環器系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	復習：P228～236を読む(1時間) 予習：P292演習5-3⑬～⑰を行う。高血圧症、虚血性心疾患、不整脈、心不全、閉塞性動脈硬化症の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
7	7回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（呼吸器系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：p236～241を読む(1時間) 復習：P292演習5-3⑱～㉓を行う。COPD,肺炎、喘息の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)
8	8回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（消化器系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P241～246を読む(1時間) 復習：P292・293演習5-3㉔～㉙を行う。消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
9	9回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（腎・泌尿器系）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P246～251を読む(1時間) 復習：P293演習5-3㉚～㉞を行う。前立腺疾患、尿路感染症、慢性腎臓病の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)
10	10回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（内分泌・代謝系）	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P251～258を読む(1時間) 復習：P293演習5-3～をする。糖尿病、脂質異常症、痛風の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
11	11回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（歯・口腔疾患）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P259～265を読む(1時間) 復習：P293演習5-3～をする。齲蝕、歯周病、ドライマウスの概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
12	12回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（悪性新生物、感染症）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P265～273を読む(1時間) 復習：P289演習5-3～をする。胃がん、肺がん、大腸がん、ウイルス性呼吸器感染症の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
13	13回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（感染症・精神疾患）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P273～281を読む(1時間) 復習：P293演習5-3～をする。感染性胃腸炎、胆のう炎・胆管炎、疥癬、うつ病、統合失調症、の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
14	14回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（熱中症、脱水症、貧血）。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P281～287を読む(1時間) 復習：熱中症、脱水症、貧血の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
15	15回目	「保健医療職との連携」 疾患の早期発見と保健医療職との連携を理解する。P299演習5-4の事例をグループディスカッションする。その内容をプレゼンテーションする。	面接授業 オンライン等で行う 場合がある	予習：P294～297を読む(1時間) 復習：発表を聞きP299演習を追加整理する(2時間)。
16		定期試験		授業外学修時間 60時間

その他

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	データを読む・説明する・扱う

教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など 教科書：最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版 中央法規出版第を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 テキスト「こころからだのしくみ」「障害の理解」を使用することもある。	【教科書】ISBN 978-4-8058-8401-0
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		
履修上の注意	本授業は、人の発達過程および老化の理解を通して、利用者理解の基礎を身につける科目である。 各ライフステージの特徴を自分ごととして捉え、主体的に学ぶことを求める。 グループワークでは他者の意見や価値観を尊重し、積極的に参加すること。 また、課題は期限を守って提出すること。	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。	
備考・メッセージ	人の一生にはさまざまな変化があります。 本授業では、その変化を理解し、「なぜそのような行動や状態になるのか」を考える力を養います。 自分自身や家族のことと重ねながら学ぶことで、より理解が深まります。	

認知症の理解A

更新日：2026/05/19 15:16:09

開講年度	2026	開講期	1Q/5Q	ナンバリング	MB104
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。
医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を学ぶ。

授業における到達目標

1	認知症の原因疾患、認知症の段階に応じた症状など、生活支援を行うための根拠となる知識が理解できる。認知症の人の心理や障害の特徴等を理解できる。
2	障害をかかえて生きることへの支援についての基礎的理解を深めることができる。認知症の人の潜在能力を活用するための支援について話し合うことができる。
3	認知症の人の生活ニーズを把握する方法について意見を述べるができる。
4	学習課題に積極的に取り組むことができる。尊厳を支える介護について基本的な知識を得ることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	・定期試験 ・小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	2	・レポート ・グループディスカッション	5% 5%
課題解決能力	3	・レポート ・グループによるプレゼンテーション	5% 5%
主体的に学ぶ力	4	・授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、定期試験60%、小テスト（課題含む）10%、レポート10%、グループディスカッション5%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
- ・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。
- ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。
- ・本授業においては、開始15分までの入室は遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 授業概要について説明する。 「認知症のある高齢者の現状と今後」認知症とは何か特徴や全体像を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P2～12を読む(1.5時間) 復習：P13演習1-1をする(2.5時間)。
2	2回目	「脳のしくみ」 脳の構造・機能、認知症の病理、アルツハイマー型認知症の進行から脳の構造と症状の関係、せん妄と認知症、うつとアパシーの理解、老化と認知症の関係から認知症と脳の間接関係を理解する。	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習：P14～25を読む(1.5時間) 復習：復習：P26演習1-2をする(2.5時間)。

3	3回目	「認知症の人の心理」 不安・喪失感を抱く理由を理解する。視点獲得という認知機能をフル活用したケアについて理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P27～30を読む(1.5時間) 復習：P31演習1-3をまとめる(2.5時間)。
4	4回目	「認知症の症状・診断・治療・予防」 中核症状の理解ができる。(中核症状、記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、空間認知障害、視覚認知機能障害、社会的認知機能、失語・失行・失認症状、病識低下、認知障害以外の症状)	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P34～41を読む(1.5時間) 復習：中核症状をまとめる(2.5時間)。
5	5回目	「生活障害の理解」 生活障害の重要性を理化する。 IADL障害、ADL障害、参加(家庭と社会)の障害を理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P42～47を読む(1.5時間) 復習：P48演習2-1をする(2.5時間)。
6	6回目	「BPSDの理解」 BPSDの定義、BPSDの背景要因を理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P49～55を読む(1.5時間) 復習：P61演習2-2をする(2.5時間)。
7	7回目	「BPSDの理解」 BPSDの誘因、主なBPSDを理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P56～63を読む(1.5時間) 復習：誘因と主なBPSDをまとめる(2.5時間)。
8	8回目	「認知症の診断と重症度」 認知症の診断要件を理解する。 認知機能と重症度の評価法を理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P65～75(1.5時間) 復習：P77演習2-3をする(2.5時間)。
9	9回目	「認知症の原因疾患と症状・生活障害」 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の病態・症状・経過を理解する。 原因疾患により症状や経過も異なることを理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P78～88を読む(1.5時間) 復習：P95演習2-4をする(2.5時間)。
10	10回目	「認知症の原因疾患と症状・生活障害」 治療可能な認知症・原因疾患の鑑別・若年性認知症について理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P88～94を読む(1.5時間) 復習：若年性認知症についてまとめる(2.5時間)。
11	11回目	「認知症の治療薬」 アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を理解する。 BPSDに対して用いられる薬の作用・副作用を理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P96～100を読む(1.5時間) 復習：P102演習2-5(2.5時間)。
12	12回目	「認知症の予防」 認知症予防のリスクについて理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P103～106を読む(1.5時間) 復習：P107演習2-6(2.5時間)。
13	13回目	「認知症の人を取り巻く状況」 認知症の人への偏見、認知症ケアの変遷について理解する。	面接授業 オンライン等 で行う場合 がある	予習：P110～117を読む(1.5時間) 復習：P135演習3-1をする(2.5時間)。
14	14回目	「認知症の人を取り巻く状況」 認知症の人主体の社会について理解する。 P135演習3-1をグループで検討し発表する。	面接授業	予習：P117～120を読む(1.5時間) 復習：P135演習3-1の整理をする(2.5時間)。
15	15回目	「認知症ケアの理念と視点」 認知症ケアの倫理、さらに認知症の人の権利とのかかわりを理解する。 P135演習3-2をグループで検討し発表する。	面接授業	予習：P121～134を読む(1.5時間) 復習：P135演習3-2でのディスカッション内容を整理する(2.5時間)。
16		定期試験		授業外学修時間60時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	データを読む・説明する・扱う	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	教科書：最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」第2版 中央法規出版を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。	978-4-8058-8402-7
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		

履修上の注意	教科書、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解を使用することがあります。 グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	認知症は誰にとっても身近な課題であり、今後の介護実践において重要なテーマです。 本授業では、認知症の症状や経過を理解するだけでなく、「なぜそのような言動がみられるのか」を考える力を養います。 利用者の立場に立って考える姿勢を大切にしながら学びを深めていきましょう。

認知症の理解B

更新日：2026/05/19 15:16:11

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	MB203
担当教員	島村 真理子				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	<input checked="" type="checkbox"/>

授業概要

認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症のケアについて理解するための基本的知識を習得する。

授業における到達目標

1	・認知症の人の生活および家族や社会とのかわりへの影響を理解できる。・認知症の人の特性を踏まえた、アセスメントを行い、本人主体の理念に基づく認知症ケアの実践を理解できる。	確かな専門的知識 や技能
2	・グループ内で協力し、認知症の人を地域で支えるサポート体制や多職種との連携などの支援について意見交換ができる。	コミュニケーション 能力
3	・共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められることを述べるができる。	課題解決能力
4	・学習課題に積極的に取り組むことができる。・尊敬を支える介護とはどのような介護か、考えることができる	主体的に学ぶ力

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力			
確かな専門的知識や技能	1	・定期試験 ・小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	2	・グループディスカッション	10%
課題解決能力	3	・レポート ・グループによるプレゼンテーション	5% 5%
主体的に学ぶ力	4	・授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション10%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。
- ・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。
- ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。
- ・本授業においては、開始15分までの入室は遅刻。また、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 授業概要について説明する。 「認知症当事者の視点からみえるもの」 認知症の人の思いや生活に及ぼす影響、サポート方法について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：P136～150を読む（1時間） 復習：サポート方法について整理する（3時間）
2	2回目	「パーソン・センタード・ケア」 パーソン・センタード・ケアの考え方と手技について理解を深める。	オンライン等で行う場合がある	予習：P154～161を読む(1時間) 復習：パーソン・センタード・ケアについてまとめる(3時間)
3	3回目	「認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール」 センター方式の各シートの狙いやひもときシートの健康状態のアセスメントについて理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P164～189を読む(1時間) 復習：P190演習4-2の事例をひもときシートに書き込む(3時間)

4	4回目	「認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール」 P190演習4-2の事例のひもときシートを用いて、グループワークを行い、アセスメントが理解できる。	面接授業	予習：P164～189を読む(1時間) 復習：P190演習4-2を整理する(3時間)。
5	5回目	「認知症の人とのコミュニケーション」 認知症の人とのコミュニケーションの基本と留意点を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P191～196を読む(1時間) 復習：認知症の人のコミュニケーションの留意点をまとめる(3時間)
6	6回目	「認知症の人のケア」 認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる(食事、服薬管理、ごみ処理、排泄)。	オンライン等で行う場合がある	予習：P197～209を読む(1時間) 復習：認知症の人の生活障害へのケアをまとめる(3時間)
7	7回目	「認知症の人のケア」 認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる(入浴、清潔保持、休息と睡眠のケア、BPSDのケア)。	オンライン等で行う場合がある	予習：P209～224を読む(1時間) 復習：入浴、清潔保持、休息と睡眠、BPSDのケアについて整理する(3時間)
8	8回目	「認知症の人へのさまざまなアプローチ」 介護される人の持つ能力を奪わないアプローチ法を理解できる(ユマニチュード)。 バリデーションの実際を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P225～232を読む(1時間) 復習：ユマニチュード、バリデーションについてまとめる(3時間)
9	9回目	「認知症の人へのさまざまなアプローチ」 回想法の実施方法と留意点を理解できる。 リアリティオリエンテーションの意味や実施法を理解できる。	面接授業	予習：P232～237を読む(1時間) 復習：各種のアプローチについてまとめる(3時間)
10	10回目	「認知症の人の終末期医療と介護」 終末期における高齢者の状態を理解できる。 終末期での認知症の人の特徴と課題を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P239～245を読む(1時間) 復習：P247演習4-3を行う(3時間)
11	11回目	「環境づくり」 認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性を説明できる。 環境づくりのポイントを理解し、具体的な手法を考えることができる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P248～260を読む(1時間) 復習：P261演習4-4を行う(3時間)
12	12回目	「介護者支援」 家族介護者へのフォーマル、インフォーマルなレスパイトケアの方法を理解できる。 介護福祉職が行う認知症の家族への支援が理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P264～280を読む(1時間) 復習：P281演習5-1をする(3時間)
13	13回目	「介護者支援」 介護福祉職が現場でやりがいをもって、働き続けられる環境を整備する方法を理解できる。 介護の現場で、認知症のケアモデルを実践するための方法が理解できる。 P298演習5-2、5-3をグループディスカッションし意見を述べるができる。	面接授業	予習：P282～296を読む(1時間) 復習：グループディスカッションで検討したことをまとめる(3時間)
14	14回目	「認知症の人の地域生活支援」 国が認知症施策として掲げている新オレンジプランの成立経緯を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：P300～312を読む(1時間) 復習：新オレンジプランで行われているサービスをまとめる(3時間)
15	15回目	「多職種連携と協働」 多職種連携と協働の基本的考え方や実践するために必要な連携力を理解できる。 P332演習6-1についてグループディスカッションを行い、意見を述べるができる。	面接授業	予習：P314～330を読む(1時間) 復習：多職種連携と協働を実践するために必要な連携力として自分が身に着けたいことをまとめる(3時間)
16		定期試験		授業外学修時間 60時間

その他

科目(教職課程用)		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項		
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など 教科書：最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」第2版 中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。	【教科書】ISBN 9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
履修条件		

履修上の注意	グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

障害の理解 I

更新日：2026/05/19 15:16:12

開講年度	2026	開講期	1Q/5Q	ナンバリング	MB105
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

障害の概念と障害福祉の基本的理念について理解するとともに、障害をもつ人やその家族への支援を行う際の根拠となる知識を習得する。

授業における到達目標

1	障害を取り巻く社会的課題や支援制度について理解できる。
2	障害の概念と障害福祉の基本理念について理解し、介護福祉職としての役割を説明できる。
3	障害のある人の心理や障害の特徴、支援のあり方を理解できる。
4	グループ内で協力し、障害福祉に携わる者としてのさまざまな対応について理解を深めることができる。
5	共生社会の考えのもと、障害をもつ人の生活課題を収集し、求められる介護福祉職の役割について意見を述べるができる。
6	学習課題に積極的に取り組むことができる。
7	尊厳を支える介護について基本的な知識を得ることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3	定期試験 小テスト	70% 10%
コミュニケーション能力	4	グループディスカッション	5%
課題解決能力	5	グループによるプレゼンテーション	5%
主体的に学ぶ力	6, 7	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、レポート5%、定期試験70%、小テスト10%、グループディスカッション及びプレゼンテーション10%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。
- ・15回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業概要について理解する 「障害の概念」 障害のとらえ方や変遷、障害者の定義を理解する	面接授業	予習：P2～12（1時間）
2	2回目	「障害者福祉の基本理念」 ノーマライゼーション、リハビリテーションなど重要な概念を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P13～25（2時間）
3	3回目	「障害者福祉に関連する制度」 障害者福祉に関する歴史について学び、障害者にかかる法律を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P27～38（2時間）
4	4回目	「障害者福祉制度と介護保険制度」 障害者福祉制度と介護保険制度の違いと両制度の併用のしくみを理解する 演習1-1	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P39～44（2時間）

5	5回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ」 「障害のある人の心理」 人間の欲求、適応機制・障害受容に影響を与える要因、支援のポイントを理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P48～55（2時間）
6	6回目	「肢体不自由（運動機能障害）」 肢体不自由の状態、特性、支援のあり方を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P56～67（2時間）
7	7回目	「視覚障害」 視覚障害の状態、特性、支援のあり方を理解する P158演習2-2（アイマスク使用）	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P68～75（2時間）
8	8回目	「聴覚・言語障害」 言語障害の種類・原因・特性・支援方法を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P76～86（2時間）
9	9回目	「重複障害」 重複障害の種類・原因・特性・支援方法を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P87～95（2時間）
10	10回目	「重症心身障害」 重症心身障害の定義・原因・特性・支援方法を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P149～157（2時間）
11	11回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ」 「知的障害」 知的障害の状況による意思表示やコミュニケーションの方法を理解する 認知力・生活体験・ライフステージの関係を考慮した支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P160～171（2時間）
12	12回目	「知的障害」 P219演習3-2に取り組み支援の内容をグループ別にプレゼンテーションする	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P219演習3-2を読む
13	13回目	「精神障害」 精神障害の種類・特性・支援とその留意点を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P172～183
14	14回目	「高次脳機能障害」 高次脳機能障害の特性・生活・原因・影響（精神・心理・生活）特性・支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P184～195（2時間）
15	15回目	「発達障害」 発達障害の特性・生活・支援を理解する 家族・教育・医療との連携のあり方を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P196～207
16	16回目	定期試験		授業外学修 52時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	教科書：最新介護福祉士養成講座14 「障害の理解」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・障害に関する内容は人権に深く関わるため、私語や不適切（差別表現や偏見に基づくものなど）な発言は慎んでください。 ・他者の意見を尊重し、相互理解を大切にされた態度で参加してください。 	
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。	
備考・メッセージ		

障害の理解 II

更新日：2026/05/19 15:16:13

開講年度	2026	開講期	3Q/7Q	ナンバリング	MB204
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	1年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

見えない障害である内部障害について学び、どのような支援が必要なのかを理解する。また、多職種連携と協働のあり方、家族への支援のあり方などの基本的な知識を習得する。

授業における到達目標

1	障害の種類や特性を理解し、多様性を尊重する視点を理解できる。
2	障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的知識を理解できる。
3	家族の受容段階や介護力に応じた支援を理解できる。
4	グループ内で協力し、障害福祉に携わる者に求められるさまざまな対応について理解を深めることができる。
5	障害者支援についての自己の考えを整理し、生活課題を推測しながら意見を述べるができる。
6	学習課題に積極的に取り組むことができる。
7	尊厳を支える介護の重要性を意識できる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3	定期試験 小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	4	グループディスカッション	5%
課題解決能力	5	グループによるプレゼンテーション	15%
主体的に学ぶ力	6, 7	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、レポート5%、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション及びプレゼンテーション20%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。
- ・15回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業内容について理解する 「内部障害」 心臓機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	予習：P96～104（1時間）
2	2回目	「内部障害」 呼吸機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P104～113（2時間）
3	3回目	「内部障害」 腎臓機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P113～120（2時間）
4	4回目	「内部障害」 膀胱・直腸機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P120～128（2時間）

5	5回目	「内部障害」 小腸機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P128～134（2時間）
6	6回目	「内部障害」 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P135～142（2時間）
7	7回目	「内部障害」 肝臓機能障害の定義・原因・特性の理解、支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P142～147（2時間）
8	8回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ」 難病の定義を理解する（ASL、パーキンソン病、悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーの定義・症状・治療）	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P208～213（2時間）
9	9回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ」 難病の特性と特性に応じた支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P213～217（2時間）
10	10回目	「連携と協働」 「地域のサポート体制」 地域のサポート体制の概念と社会資源の考え方を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P222～226（2時間）
11	11回目	「連携と協働」 「障害福祉サービスの提供のしくみ」 サービス利用のしくみと相談支援専門員の役割を知る 協議会のもつ機能と地域のサポート体制を知る	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P226～235（2時間）
12	12回目	「連携と協働」 「チームアプローチ」 チームアプローチのあり方を知る 保健医療関係職種と業務内容を知る	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P236～247（2時間）
13	13回目	「家族への支援」 「家族への支援とは」 障害者家族への支援の考え方を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P250～262（2時間）
14	14回目	「家族への支援」 「家族の介護力の評価と介護負担の軽減」 家族と障害者、環境との関係性に着目した支援を理解する 家族の介護力をふまえた支援を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P263～275（2時間）
15	15回目	1回目～14回目授業のまとめ	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：配布したプリント（すべて）に目を通す（2時間）
16	16回目	定期試験		授業外学修 56時間

その他

科目（教職課程用）					
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等					
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項					
教科書	<table border="1"> <tr> <td>【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など</td> <td>【教科書】ISBN</td> </tr> <tr> <td>教科書：最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版 中央法規出版</td> <td>9.78481E+12</td> </tr> </table>	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN	教科書：最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN				
教科書：最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版 中央法規出版	9.78481E+12				
参考書	<table border="1"> <tr> <td>【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など</td> <td>【参考書】ISBN</td> </tr> <tr> <td>必要に応じて資料を配布します。</td> <td></td> </tr> </table>	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN	必要に応じて資料を配布します。	
【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN				
必要に応じて資料を配布します。					
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・障害に関する内容は人権に深く関わるため、私語や不適切（差別表現や偏見に基づくものなど）な発言は慎んでください。 ・他者の意見を尊重し、相互理解を大切にされた態度で参加してください。 ・授業で扱う事例については、「正解」を求めるのではなく、多様な視点から考察してください。 				
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。				
備考・メッセージ					

医療的ケアA

更新日：2026/05/19 15:16:19

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	MC301
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど）	

授業概要

医療職と連携し、介護福祉士として喀痰吸引を安全で適切に実施できるようになるための基礎的な知識を習得する。

- ①医療的ケア実施の基礎的な知識を理解する。
- ②高齢者、障害者・児に対する喀痰吸引の手順を理解する。

授業における到達目標

1	医療的ケアの基本概念と対象者を理解できる。
2	医行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等制度が理解できる。
3	安全に実施するために必要な基礎的知識と手技が理解できる。
4	根拠に基づく手技が実践できるための知識を得ることができる。
5	喀痰吸引に際して、利用者及び家族へ同意を得るための説明内容が理解できる。
6	実施にあたって必要となる医師の指示の確認、医療職への報告や連絡・相談、記録内容が理解できる。
7	法律に基づき喀痰吸引を実施することを十分に理解したうえで、不明な点を明確にする力を身につけることができる。
8	介護福祉士の役割として、喀痰吸引を実施する際に、多職種と連携が必要なことが理解できる。
9	学習課題に積極的に取り組むことができる。
10	職業倫理の重要性を利用者、家族の視点から考えることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3, 4	定期試験 小テスト	70% 10%
コミュニケーション能力	5, 6	小テスト（レポートを含む）	5%
課題解決能力	7, 8	演習	5%
主体的に学ぶ力	9, 10	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、レポート5%、定期試験70%、小テスト15%、演習5%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。 ・18回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。 ・演習は実習室で行います。 			

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業内容について 「医療的ケア」 ・医療的ケアとは何か ・医行為、チーム医療について理解する	面接授業	予習：P2～4（2時間）
2	2回目	「医療的ケア」 医療の倫理について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P4～11（2時間）

3	3回目	「医療的ケア」 喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P11～21（2時間）
4	4回目	「医療的ケア」 医療的ケアと喀痰吸引等の背景を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P21～27（2時間）
5	5回目	「医療的ケア」 制度（介護保険法、障害者総合支援法、健康保険法、学校教育法）を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P28～35（2時間）
6	6回目	「清潔保持と感染予防」 感染予防について理解する 介護福祉職の感染予防を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P62～72（2時間）
7	7回目	「清潔保持と感染予防」 療養環境の清潔・消毒法を理解する 消毒と滅菌について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P71～78（2時間）
8	8回目	「健康状態の把握」 健康状態を知る項目について理解する バイタルサインについて理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P80～88（2時間）
9	9回目	「健康状態の把握」 バイタルサイン測定を体験する 急変状態について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P86～92（2時間）
10	10回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 呼吸のしくみとはたらきを理解する 喀痰吸引（痰排出のしくみ、痰の貯留を示し状態）について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P96～102（2時間）
11	11回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 喀痰吸引とは何かを理解する 喀痰吸引が必要な状態を理解する 人工呼吸器と吸引について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P102～112（2時間）
12	12回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医師・看護師との連携について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P112～121（2時間）
13	13回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意について理解する 呼吸器系の感染と予防について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P121～128（2時間）
14	14回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認のしかたを理解する 急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する ヒヤリハット・アクシデント報告書について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P129～139（2時間）
15	15回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順」 喀痰吸引に必要な器具・機材とその仕組み・清潔保持について理解する 吸引の技術と留意点を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P142～146（2時間）
16	16回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説」 吸引の技術と留意点を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P144～154（2時間）
17	17回目	「喀痰吸引の実施の手引き」 吸引の技術と留意点について学内演習を行う	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P232～242（2時間）
18	18回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説」 報告及び記録について理解する 本教科のまとめ	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：159～163（2時間）
19	19回目	定期試験		授業外学修 70時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	

履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。
履修上の注意	医療的ケアは利用者の生命・安全に直結する行為であることを十分に理解し、倫理観と責任感を持って主体的かつ誠実に取り組んでください。
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。
備考・メッセージ	

医療的ケアB

更新日：2026/05/19 15:16:21

開講年度	2026	開講期	前期	ナンバリング	MC302
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	講義	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	<input checked="" type="checkbox"/>
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

医療職と連携し、介護福祉士として経管栄養を安全で適切に実施できるようになるための基礎的な知識を習得する。
シミュレーションモデルに救急蘇生法とAEDの基本的操作を実施できる技術を習得する。

- ①高齢者、障害者・児に対する経管栄養の手順を理解する。
- ②応急手当普通救命講習Ⅰを受講する。

授業における到達目標

1	医療的ケアを必要とする人のQOL向上を考慮した支援を理解できる。
2	医療行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等の制度が理解できる。
3	安全に実施するために必要な基礎的知識と手技が理解できる。
4	根拠に基づく手技が実践できるための知識を理解できる。
5	救命技能認定証を取得できる。
6	経管栄養に際して、利用者及び家族へ同意を得るための説明内容が理解できる。
7	実施にあたって必要となる医師の指示の確認、医療職への報告や連絡・相談、記録内容が理解できる。
8	法律に基づき経管栄養を実施することを十分に理解したうえで、不明な点を明確にする力を身につけることができる。
9	介護福祉士の役割として、経管栄養を実施する際に、多職種と連携が必要なことが理解できる。
10	学習課題に積極的に取り組むことができる。
11	職業倫理の重要性を利用者、家族の視点から考えることができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	2, 3, 4, 5	定期試験 小テスト	70% 10%
コミュニケーション能力	6, 7	小テスト	5%
課題解決能力	8, 9	演習	5%
主体的に学ぶ力	10, 11	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項

- ・本授業では、レポート5%、定期試験70%、小テスト15%、演習5%、授業への参加・態度5%の割合で評価します。
- ・18回の授業の内小テストを数回行います。実施日は事前にお知らせし、テストの返却は次回の授業に行います。
- ・演習は実習室で行います。

授業計画

	授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業内容について 医療的ケア実施の基礎を理解する 医療倫理について理解する	面接授業	予習：P2～4（2時間）
2	2回目	「安全な療養生活」 安全な喀痰吸引や経管栄養の実施、リスクマネジメントを理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P37～44（2時間）

3	3回目	「安全な療養生活」 救急蘇生の重要性、一時救命処置、救急蘇生について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P44～48（2時間）
4	4回目	「安全な療養生活」 異物、分泌物除去法について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P48～55（2時間）
5	5回目	「安全な療養生活」 人工呼吸の方法について理解する AEDの使用法について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P56～59（2時間）
6	6回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 消化器系のしくみとはたらきを理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P164～170（2時間）
7	7回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 消化・吸収とよくある消化器の症状を理解する 経管栄養とは何かを理解する 注入する栄養剤に関する知識を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P170～178（2時間）
8	8回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養実施上の留意点を理解する 子どもの経管栄養について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P178～183（2時間）
9	9回目	「安全な療養生活」 救急蘇生（演習） 普通救命講習Ⅰを受講する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P285～295（2時間）
10	10回目	「安全な療養生活」 救急蘇生（演習） 普通救命講習Ⅰを受講する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P285～295（2時間）
11	11回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養に関する感染と予防について理解する 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P184～188（2時間）
12	12回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P188～193（2時間）
13	13回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 急変・事故発生時の対応と再発防止について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P194～195（2時間）
14	14回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養に必要な器具・機材とその仕組みについて理解する 経管栄養の技術と留意点を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P200～206（2時間）
15	15回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順の解説」 経管栄養の技術と留意点について理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P207～215（2時間）
16	16回目	「高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順の解説」 経管栄養に必要なケアについて理解する 報告及び記録を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P215～219（2時間）
17	17回目	「経管栄養のケア実施の手引き」 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の方法を理解する	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P247～270（2時間）
18	18回目	「経管栄養のケア実施の手引き」 経鼻経管栄養の方法を理解する 本教科のまとめ	面接授業	復習：前回の授業（2時間） 予習：P271～283（2時間）
19	19回目	定期試験		授業外学修 70時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。	
履修上の注意	医療的ケアは利用者の生命・安全に直結する行為であることを十分に理解し、倫理観と責任感を持って主体的かつ誠実に取り組んでください。	
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や研究室にて受けつけます。	

医療的ケアC

更新日：2026/05/19 15:16:23

開講年度	2026	開講期	後期	ナンバリング	MC401
担当教員	白似田 健悟				

配当	学部/学科	短期大学 長崎短期大学 地域共生学科 介護福祉コース			
	配当年	単位	科目必選区分	授業形態	
	2年	2	選択	実習	

アクティブラーニングの類型	①発見学習（事実を発見する過程から学習者に体験させる手法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	②問題解決学習（PBL：自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）	<input checked="" type="checkbox"/>
	③体験学習（実際の活動体験を通して学ぶことを狙った学習形態）	<input checked="" type="checkbox"/>
	④調査学習（課題について調査し結論をまとめる学習法）	
	⑤グループ・ディスカッション（議論まで）	
	⑥ディベート（特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論をする手法）	
	⑦グループ・ワーク（議論+成果物（プレゼンなど））	

授業概要

医療職との連携のもとで、医療的ケア（喀痰吸引並びに経管栄養）を安全・適切に実施するための基礎知識・技術を習得する。

医療的A・Bで得た知識をもとに、シミュレーションモデルを使用し、①喀痰吸引ー通常手順②喀痰吸引ー非侵襲の手順③喀痰吸引ー気管カニューレ④経管栄養ー経鼻経管栄養⑤経管栄養ー胃ろうの5項目について、準備から後始末、記録の記入、報告までの一連の演習を行い、基本研修評価基準の項目をすべて実践できることを目標とする。

授業における到達目標

1	医療的ケアの実践技術を身につけ、安全に実施できる。
2	適切な用具の取り扱いができる。
3	医行為である喀痰吸引や経管栄養を安全に実施するための根拠を理解し、確実に研修評価基準内容に沿った行動ができる（5項目すべて）。
4	感染防止に努めることができる。
5	演習を通して、医療的ケアの提供について説明と同意を得ることができる。
6	観察内容を医療者に報告できる。
7	安全に実施するための自己の課題を明確にすることができる。
8	学習課題に積極的に取り組むことができる。
9	倫理に基づいた行動ができる。

評価方法

資質・能力	授業における到達目標（番号のみ記載）	評価方法	評価比率
現代社会を生き抜く力	1	実技試験	10%
確かな専門的知識や技能	2, 3, 4	実技試験	60%
コミュニケーション能力	5, 6	実技試験	10%
課題解決能力	7	実技試験	10%
主体的に学ぶ力	8, 9	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- 筆記試験による知識の定着確認（第1段階）
四肢択一問題30問の総正解が9割以上満たしていることを確認できた学生から、演習を実施する。
- 技能習得の確認
・実技は、①喀痰吸引ー通常手順②喀痰吸引ー非侵襲の手順③喀痰吸引ー気管カニューレ④経管栄養ー経鼻経管栄養⑤経管栄養ー胃ろうの5項目を、それぞれ最低5回以上行う。
・①～⑤の項目において、各項目5回以上の技能習得判定（評価）を受ける。各項目の最後の評価が、基本研修基準で示す手順どおりに、すべて実施できていると評価を受けた学生に履修を認める。
・技能習得は、第1段階から第4段階まで段階を追って習得する。各段階の詳細な説明は、授業開始時に行う。

授業計画

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
------	-------	------	-------------

1	1回目	「オリエンテーション」 シラバス、授業概要と実技評価について理解する 医療的ケアCの合格基準について理解する 筆記試験を受ける 実技評価を受けるための諸準備を行う（指示確認、手洗い、必要物品の確認、環境整備、観察、報告、記録）。 2段階2項目のデモンストレーション見学 経管栄養実技2段階準備	面接授業	予習：P164～219（1時間）
2	2回目	「経管栄養2段階」 経鼻経管栄養・胃ろうのグループ体験を行う 各自1回は必ず体験する	面接授業	予習、復習：P247～263（1時間）
3	3回目	「経鼻経管栄養3段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P271～283（1時間）
4	4回目	「経鼻経管栄養3段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P271～283（1時間）
5	5回目	「経鼻経管栄養3段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P271～283（1時間）
6	6回目	「経鼻経管栄養4段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P271～283（1時間）
7	7回目	「経鼻経管栄養4段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P271～283（1時間）
8	8回目	「胃ろう栄養3段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P247～270（1時間）
9	9回目	「胃ろう栄養3段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P247～270（1時間）
10	10回目	「胃ろう栄養3段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P247～270（1時間）
11	11回目	「胃ろう栄養4段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P247～270（1時間）
12	12回目	「胃ろう栄養4段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P247～270（1時間）
13	13回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）2段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）デモンストレーション見学後グループ体験する 各自1回は必ず体験する	面接授業	予習、復習：P94～159（1時間）
14	14回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）3段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
15	15回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）3段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
16	16回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）3段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
17	17回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）4段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
18	18回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）4段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）

19	19回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）2段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）デモンストレーション 見学後グループ体験する 各自1回は必ず体験する	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
20	20回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
21	21回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
22	22回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
23	23回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）4段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
24	24回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）4段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P224～234（1時間）
25	25回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）2段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）デモンストレーション見学後グループ体験する 各自1回は必ず体験する	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
26	26回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
27	27回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
28	28回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
29	29回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）4段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
30	30回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）4段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける	面接授業	予習、復習：P235～246（1時間）
31				授業外学修 30時間

その他

科目（教職課程用）		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等		
数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項	社会で活用されているデータ	
教科書	【教科書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【教科書】ISBN
	最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」第2版 中央法規出版	9.78481E+12
参考書	【参考書】書籍タイトル、著者、発行年、出版社など	【参考書】ISBN
	必要に応じて資料を配布します。	
履修条件	教科書や配布物は忘れずに持参してください。	

履修上の注意	医療的ケアは利用者の生命・安全に直結する行為であることを十分に理解し、倫理観と責任感を持って主体的かつ誠実に取り組んでください。 実習実を使用する際には、ドレスコードを守ってください。
オフィスアワー	質問は、授業の前後などに教室や実習室、研究室にて受けつけます。
備考・メッセージ	